新女界

明治四十四年二月一日發行

第參卷第貳號要目

無意識の感化　安井哲子
永遠の生命　海老名彈正
かあやん　德富健次郎
黒砂の孝女　白鳥健
現代小説雜話　小山東助
淸國のお正月　片山幽吉
完全なお手本　宮川すみ子
父母よりも神様　某夫人
幼時より宗教々育を施すべし　海老名みや子
病院より　元良よね子

東京　新人社　發行

明治四十四年二月一日發行（一月二十八日印刷納本）明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

新女界第参巻第貳號

社説
◎無意識の感化　安井哲

講壇
◎永遠の生命　海老名彈正

想苑
◎かあやん　德富健次郎
◎黒砂の孝女　白鳥健
◎現代小説雑話　小山東助
◎清國のお正月　片山幽吉
◎白雪姫　くすを生
◎湯臺叢話　谷津直秀

家庭
◎幼年時代の宗教々育
△完全なお手本　宮川すみ子
△父母よりも神様　某夫人
△幼時より宗教々育を施すべし　海老名みや子
◎家庭に於ける亡父の平生　小林富次郎
◎時々其折々　△露獨協約△カーネギー翁の寄附△帝國議會の開會△村松前代議士夫妻△無政府主義者の判決△千里眼婦人の毒死
◎摘草集（新聞、雑誌、管見）

隨感
◎病院より　元良よね子

交際場裡に文明の美花を開かるゝ紳士も奥さんも孃さんも香り深き千代田香油に限るとの高評盛んなり

定價　七十錢　卅五錢　廿五錢　十七錢

試用見本郵劵代用あれ

スワン石鹸

純白で湯水に浮き價安くて品の善いスワン石鹸は至る處の小間物、化粧品薬舗にあり　定價廿二錢

東京馬喰町四丁目
スワン石鹸日本一手販賣
山岸三之助
電話濱花一三七九三
振替口座一九九七八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人世界

二月一日發行　六卷第二號　一冊拾五錢　郵税一錢五厘　半年分郵税共一圓五錢　一年分同二圓五錢

◎試驗に迫りて狼狽する女學生……下田歌子

●支那人に嫁した日本婦人……吳乙女子

◎私の百道樂……江木夫人

◎歴史實譚 松尾多勢子……渡邊默禪

◎新形束髮の結ひ方……伊賀虎子

◎食物上の大改良……弦齋夫人

●辨財天は嫉妬深き神樣……武田豐四郎

▼日本には何故に婦人解放問題が起らぬか……鳩山春子

◎人情論……村井弦齋

▼手紙を書くにはこの心掛けが肝要なり……渡邊白水

●姙娠を言ひ當てる千里眼婦人……竹內龜代子

◎小兒病の豫防……加藤博士

◎家庭衛生談……村井弦齋

◎紅淚記……伊藤鎮代

◎家事經濟の執り方……嘉悅孝子

●新婦人の日常生活……岩崎德子

◎細川忠興の妻……井上博士　古城貞吉　幸田露伴　藤澤古雪　後閑菊野　栗塚龍子　その他

東京京橋南紺屋町十二番地　實業之日本社　郵便振替貯金口座三六二番　賣捌　全國書店

文學博士 井上哲次郎序
ドクトルオブフヒイロソフイ文學士
廣島高等師範講師 三澤糺著

時代と教育

四六判五百餘頁
定價九拾錢 郵税八錢

廣島高等師範教授
文學士 栗原基譯 定價八拾錢 郵税八錢

ノイマン 耶蘇傳

最も中正なる基督傳として、基督教學界に名聲ある好著

スカダア博士著
竹中悦藏譯 定價拾錢 郵税貳錢

少年 基督教問答

少年、求道者、婦人等に最も簡便に基督教を會得せしむる良案、日曜學校、共勵會、家庭、傳道に用ゐて好る可。

乃木大將題詩高崎男題詠
中村不折裝釘 村田勤編

慈愛の涙

頗る美本壹圓八拾錢送料拾貳錢
子を失ひたる人々が哀詞をつられたるもの、同哀の人の一讀を乞ふ。

發兌 東京京橋 振九五三 警醒社書店 本郷春木町二丁目廿二 同支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本輸入品に限り包装紙に斜に「アイボリー石鹸」と記入し一見模造悪質石鹸と判別に容易ならしむ

御購求の節「アイボリー石鹸」に御注意を乞ふ

▲合本出來▼

新人　第十一卷　代價送料共　金一圓三十錢

新女界　第二卷　同　金一圓

裝釘堅牢優美永久保存に絶好也

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◀ 稀有の飛躍をなせる二月號 ▶

婦女界

二大呼物（毎號掲載）

▲夫婦論

戀愛は神聖なりや、結婚は幸福なりや　羽仁もと子

▲女（貌と才と德）　文學博士　三宅雄次郎

●男子の品行問題

▲夫の不品行に對する妻の覺悟　某政治家夫人

▲醫學上より見たる男子の不品行　大澤醫學博士

▲夫の妻に對する德義……　大內青巒

▲男子の罪か婦人の罪か　目賀田男爵夫人

▲不品行は多く酒より來る　片山醫學博士

▲高尙なる趣味を與へよ　棚橋絢子

▲家庭の責、學校の責、社會の責　向軍治

▲婦人は度量廣く……　某陸軍少將夫人

▲最後の一點枉ぐべからず　井深花子

▲男子の自尊心に訴へたし　鎌田榮吉

▲敎育と宗敎の力を以て　江原素六

▲まことの愛まことの節操　近角常觀

▲男子の不品行は何に原因するか▲男子は何故に節操を守る能はざるか▲男子の不品行を豫防するの道ありや▲男子の不品行に對する婦人の態度如何▲これらの問題に對して或は切實なる經驗の上より、或は科學、宗敎、敎育の立場より、最も明快適切なる解釋を與ふ▲夫の放蕩に苦しみ或はその素行を疑ひて煩悶せるもの、及びすべての結婚生活にある男女、將に結婚生活に入らんとする男女は、必ず一讀せよ

◉六年を費して法華經八卷を寫す　跡見花蹊

◉妖怪學上より見たる家庭……　井上博士

◉妻、母、主婦としての我が苦心……　宮田多賀子

◉家を上手に持つ工夫……　羽仁もと子

◉今樣ふだん着姿▲着物の仕立方▲不斷着の撰び方▲不斷着のいろ／＼▲着こなし方

▲歌もの語り（山遠稻子）▲女子大學火事演習の記▲柴田女史宅の稽古初め▲初午の話……▲二葉幼稚園を觀る……▲風邪とは何か……▲文藝その月々……▲新家庭の經驗……

▲口繪

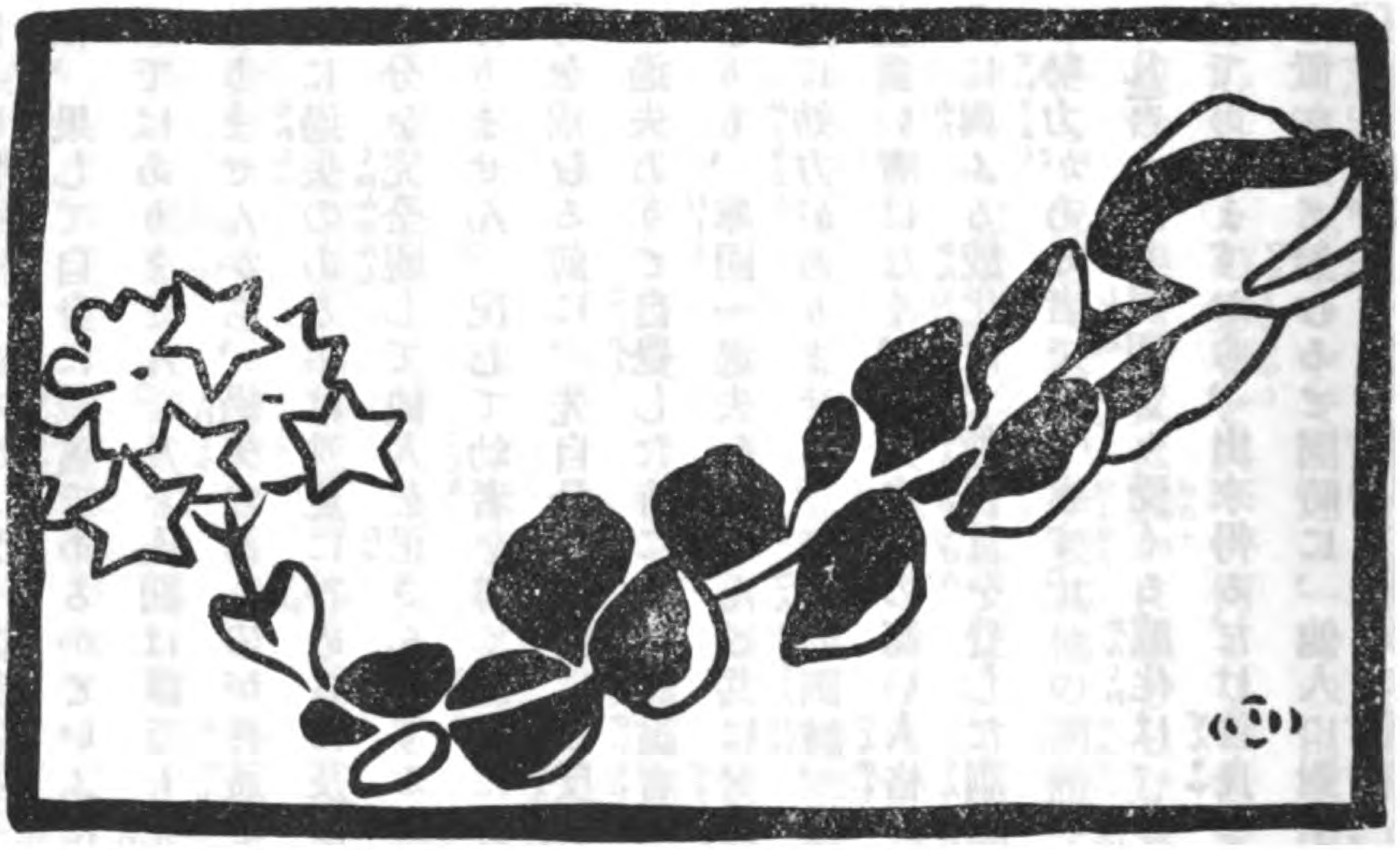
▲平和の家庭（石版十度刷）上村松園女史　▲霜の朝（岡野榮）

▲御名代として御渡英の東伏見宮妃殿下▲世紀に冠絕したる美人シッドン夫人▲跡見花蹊女史と其手寫にかゝる法華經▲居間、書齋、庭園に於ける棚橋刀自▲片山醫學博士の家庭▲新婚の加納子爵世嗣夫妻（以下略す）

東京市神田區表神保町二　同文館

一冊金拾五錢（郵税一錢五厘）六冊金九十錢　十二冊一圓七十五錢　郵税共前金

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



第参巻第貳號

無意識の感化

安井　哲

言ふ事は易く行ふ事の難いのは、誰も實驗して居ます。併人の親たり、教師たり、或は先輩たる人々が反省の結果、吾子、吾生徒、或は吾後進者に對して、日頃說く所と一致の行動を採つて居らぬと覺つた時には、實に苦痛を感ずる者であります。私は近來幼兒の友として、一方に弱者に深く同情致しますと同時に、一方には苟も教師として、無意識に惡影響を他人に及ぼして居りはせぬかといふ事を恐れて居ります。自身の事は暫く措き、他人が幼者を叱つて居るのを聽いて居りますのに、時とすると「ああ幼年者には無理な小言である」と密に感ずる事もありますが、一歩進んで、其人自身は果して之れと同樣な過失を有たぬであらうかと研究して見ますと、決してなしと斷言の出來ぬ場合が多くあります。例へば不整頓の習慣ある幼者を誡むる成人は、果して

自身に整頓家であるか、又不誠實なる子供を叱る親は、果して自身に誠實であるかといふに、必しもそうではありません。凡そ人間は誰でも完全無缺ではありませんから、過失のあるのが普通であります。故に過失のある事は殊更に咎めるに及びませんが、自分を完全視して他人を正さんとする事は愼まねばなりません。況して幼者を導く位置にある者は、彼等を戒むる前に、先自分は如何にと反省し、若同樣の過失ありと自覺した時には、訓誡者の位置に立つよりも、寧同一過失を改めんと共に努力する方が、遙に効力がありませう。無言の訓誡、無意識の感化程貴い者はなく、其人自身の高い人格が、自然は他人に與ふる感化は、數百言を費した訓誡よりも、遙に勢力がある者であります。

凡吾々が其周圍より受くる感化は、非常に大きな者でありますから、出來得るだけ善良な境遇に吾身を置かんと努むると同時に、他人に對する自身の責任をも能く考へて、他人の爲めに吾自ら惡しき境遇

を造らぬ樣に注意すべきであります。私の知人に小言好きな人があります。偶夕食などに招かれてまありましても、御馳走や給仕の仕方などを一々批評しまして、奥樣や女中などを困らせますので、客は其場合如何に身を處すべきかに當惑し、折角の御馳走も味なく、唯其場の平和なれかしと祈るのみであります。一時の客としてさへかくもつらき者を、況して其家族は如何に苦痛であらうかと實に同情に堪へません。

然るに若能く和樂した家庭に招かれました時には、假令粗飯を與へられましても、幾倍美味に且愉快に感ずるか知れません。私が曾て世話になりました英國の老婦人は、娘と二人誠に質素な生活をして居ますが、實に眞面目で且親切な人でありました。或時其友人が遙に訪ねて來ました處が、丁度夕食前でありましたので、私共三人の食物を四分して、共に樂しく食事を致しました。其飾り氣のない親切に、客も私共も少量の食物に滿足し、睦しく一夕を語り暮し

た事があります。此二例は誠によい對照であります。

電車や滊車の中で出逢ふ一時の出來事でも、吾々の心に種々の影響を與へ、何となく世の中を冷やかに感せしめたり、又は暖かに感ぜしむる者でありますから、況して家庭、學校其他の團體生活を爲す者に與へる、其團體の影響は實に大なる者であります。そこで吾々は親として故意に其子供を害はんとする者はありませんし、又長者として幼者を故意に傷けんとする者もありません。併無意識に惡影響を彼等に及ぼす者でありますから、吾々は先指導者たるの資格を備へんが爲に、自身の修養を第一に致したい者であります。而して修養には種々の方法もありますが、單に有益な講話や讀書に依つて、道德的智識を增し、正邪善惡の區別を明にするのみでなく、必之れを實行せんとする努力が伴はなければなりません。

吾々が善良な人間になり難いのは、必竟實行が思想に伴はぬ爲で、單に思想のみでは、其智識は他人に傳へ得られますが、之れに依つて感化を與ふる事は出來ません。加之感化を與へんと意識して爲した行爲は、却つて眞の効果を得られぬ者で、無意識に與へた感化が卽眞の感化であります。吾々平凡な人間は、少しく物の眞理を解し初めますと、直に自分を買ひかぶり、自分の行爲を善解する傾を有ちますが、眞に善良な人は、恐く自分の善良な事を意識せぬであらうと想像されます。而も其人に接すれば、自然に其の美くしい心に觸れて、不知不識高きに引き上げられるのであります。虛心平氣に自身を觀察して見ますと、恰も他人を指導する資格があるかの如くに自信して居ますが、結果良からぬと見て、其責を却つて他人に歸するのは大なる誤りであります。要するに、吾々は先言ふ事を知つて、行ふ事を後にし、自身を善解して、他人を惡解し、自身を完全視して、他人を指導せんとして失敗するのであります。其故に吾子と共に、又は吾生徒と共に、絕えず修養して、一歩一歩と善に進み、不知不識互に善良なる感化を受け合ふ樣に致したい者であります。

講壇

永遠の生命

海老名彈正

△朝露の人生

昔から人生を朝の白露に譬へて、誠にはかなきものは人の生命であるといつて來た。最も長くて七十年、百歲に至るといふ事は極めて稀である。そこで詩人が花を觀て自分の身に思ひ當てゝ、散り行くものは我身なりけりと詠つて居る。斯の如く吾々の肉體の生命は自然界と共に浮び又共に沈むのである。故に肉體の慾情に從ふ人は此の運命を免れることは出來ない。淺墓なる個人主義や自然主義は到底此の境界を脫することを得ない。若し吾々の生命といふものが消え行く肉體と共に散り行かば、吾々は如何許り冷き生涯を送ることであらう乎。或る人が長生の秘訣として一切の感情といふものを抑へて動さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ない様に努め、如何なる出來事に出遇ふとも決して感情を煽ふることの無いやうに修養せよと教へる。成程此の秘訣に依ると頗る長生が出來るかも知れぬ、併し是は鶴や龜の長壽と擇ぶ所はない。吾々は修養を積んでまでも鶴や龜に成ることを學ぶに忍びない。吾人は縱令短かい生涯にしても人間らしい生活を爲たいものである。然らば人間らしい生涯とは果たして如何ものである乎。そして又此の人間らしい生活には永生といふものが如何して得られるのである乎。啻に鶴の千年龜の萬年といふよりも最つと限りの無い生命が有るとは尊いイエスの福音である。

△個人の權威

近代に成つて古人の殆ど心付くこと能はざる程に深い意味に於て、個人といふものゝ價値が認められる樣に成つた。從來東洋に於ては此の個人の價値は誠に認められて居なかつた、又西洋とても凡そ今から四百年前に遡ると個人の價値は中々解らなかつた。漸つとルーテルの宗教改革に至つて初めて世人が是に心付く樣に成つた。何となればルーテルは心の底の底、奥の奥までも眞によく味はつて、個人の價値の如何に貴いかを身を以て明かにしたからである。當時神聖視せられて居た羅馬法王に對し個人の權威が絕對なるを示したからである。又飛ぶ鳥も落ちるといふ勢を以て歐洲全土を壓服して居るチャーレス五世をも憚る所なく個人の價値を主張して止まなかつたからである。誠に彼は名もなき一修道士の身を以て、一度衷に自覺の聲を聽くや此の一個の信念をもて全歐洲を靡かせた。彼が爰に至つたのは決して劍に依るに非ず、權勢に依るに非ず、富力に依るに非ず、只一個の精神の力に依つたに過ぎない。義人は信仰によりて生くべしといふ所には決して昔から傳へた信仰個條とか教會の習慣等を受けた儘で信ずるのではない。自分の衷に一個のルーテルの心の奥底に神聖にして犯すべからざる一種の力を信じ

たのである。故に彼が聖書を獨逸語に譯するにも決して昔から傳つたものであるといふのでなく、自分の裡の實驗と相照す所が有るから之を無上の權威として世に公にしたのである。又哲學者カントも亦此の點に於てルーテルと肝膽相照す所が有つた。外からの命令でなく自分の心の中に比ぶべからざる尊い或るものを自覺して、其學說に於て又其氣高い人格の中に於て明かに之を示して居る。此處には帝王も入るべからず、權勢も侵す能はず、又其兩親と雖も窺ひ識ることの出來ない、誠に尊嚴なるものを個人が宿して居る所を明かにしたのである。又此の處を近くはニッチエやイプセンも他面から力を罩めて高潮したので、近來世に行はるゝ淺薄なる個人主義や自然主義とは大に異なる。兎に角近代人の第一の特徵は此る個性の權威を認めたといふ點に在る。

△一杯の清水

斯る尊むべき個人と雖も是は決して肉體の個人を

指して云ふのではない。吾々の肉體の慾情は如何に強くとも凡て一時的である、決して永遠のものではない。例へば人の衣食の慾の如きは最も強烈なもので、吾々が渴して水を慕ひ飢えて食を覓むる所は實に止む能はざる程のものであるが、是とても限あるものである、故に一杯の水を以て其渴を癒すことが出來、三杯の食を以て其飢を凌ぐに澤山である。そして彼れから是へと移り行いて寔に變轉極なきもので少しも永久的のものでは無い。處が吾々の精神の慾、飢ゑ渴く如く義を慕ふ所の精神は、彌々誠あるを得て彌々誠に進み、益々受けて益々求むる所のものである。吾々の眞の精神は愈喰へば愈飢えて愈慕ふのである。限が無い、行けど〳〵盡きぬ、何處まで登つても滿足するといふことは無く、疲れを感ずることもなければ又飽を生ずる虞も無い。誠に永遠から永遠に亘る狀態とは正に吾々の精神の事である、併し肉體の慾には其時々に滿足がある、少し過せば飽いて來る、更らに度が過ぎると最早見るから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

嫌に成る。故に肉體の慾を以て精神の慾に代へることは出來ぬ、限あるものを以て限なきものを充すことは出來ない。

若し肉體の慾に止まつて滿足する人はまことに淺薄なる人である。吾々の肉體其もの慾其ものが段々減少して仕舞には自滅に歸するのではないか。パウロの言ふ外なる人は初めから限られてゐるのであるが、併かし內なる人、精神は何處までも／＼辿り行くのである。我が基督敎が傳ふる所のものは是である。

「人もし全世界を獲るとも其生命を失はば何の益あらんや」と敎へられた基督の個人の價値は、實に此のものである。又「小子の一人を躓するよりは磨石を頸に懸られて海に投せられんこと其人の爲めに宜るべし」と言はれた所の眞意も此處に在る。恰も慈母や乳母が幼兒を見守つて實に注意に注意を加へて育てる如く、天地の父、神の面を伺ふ天使が絕えず其幼兒を見守り居るといふ程に赤兒を大切に思はるゝのは、全世界とも代ふる事の出來ない尊い個人の精神が宿つて居て、之を肉體が包んで居るからである。

△消滅の悲哀

併し乍ら人一度肺患にでも罹れば、如以に意氣旺なる人と雖も次第々々に肉が落ち、日に／＼瘦せ衰へて行く段に成ると、遉に悲哀の感に堪へないであらう。誠に死に近づくは悲哀である。日頃の思案も役に立たぬ。到底人は死を見ては悲哀の蛇に噬まるるを免れない。斯の如くして人生は悲哀に終るのであらう乎、人生の極は悲哀に消ゆる乎。噫消滅！悲哀々々何たる悲哀ぞ！　併し乍ら此の消滅の裡に生命の閃を認めることが出來る。是がキリストの福音である。彼のむさくるしい毛蟲も未だ木葉を喰うて居る中は實に醜い匍ふ虫である。併し化して蝴蝶と成り翩々として空に飛び、花の精を吸ひ玉なす露に生を凌ぐ時が來るではない乎。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

近頃千里眼といふことが八釜敷成つて來て物質以上のものが存在するといふ事が明かにされつゝある。併し吾々から見れば未だ淺薄たるを免かれぬ、今少し偉い所に行かねばならぬ。人格といふ點に於て果して何れだけ變つたであらう乎。千里眼の人必ずしも君子に非ず。吾人の言ふ所は神の清きを清とし、神の尊きを尊しとし、神の善を善とし、神の愛を愛とする道德上の人格の生命である。斯る生命の光耀こそ實に吾々が求めて〳〵止まない所のものである。吾々の望ましき死は唯平安なる死といふことが理想ではない。誠に麗はしい餘光を遺す死であつて欲しい、是が眞に吾人基督者の死である。

△死際の憧憬

斯の如く餘光のある生命とは何であらう乎。吾々は花を観て美と思ふ、併し或る學者は眞の美は眼に見ゆるものに非ずして靈的元素であると言つて居る。實に吾々が現に見て居る美は美の影である。善

も亦其通である。其人の素行に由りてのみ善なりとするは未だ皮相である。眞の善は決して人の肉眼に入るが如きものではない。眞も亦斯の如く、此る眞善美は宇宙の眞善美である。此の宇宙の眞善美の生命が吾等五尺の身體に宿つて居る。故に吾々の此の一個の生命を單に五尺の人として見ることは大なる間違である。吾々個人其ものが宇宙である。故に吾々の認めたる美は萬人の善である、否宇宙の善である。斯る尊きものが死すべき肉體の裡にある。パウロは之を一粒の麥に譬へて言つて居る。麥の一粒の中にも實に生といふ偉い生命が宿つて居る、若し此の麥が死ねば裏から此の生命が現はれて來る。小さい一粒の木の實でも生命が發現すると遂には靑雲にも摩する大木ともなる。此の如く外なる肉體が死する時にも裡には絕えず生命が働らいて居るから、誠に非常なる勢で發現する。此る生命こそ眞の人格、未來の永　生である。併し此の內なる生命は誰れにでも成長するものであらう乎。道德的生活の上に少

の努力なき人にも此の永生が有るであらう乎。人格の完成に心を用ゐなかつた人に、是が享けられるのであらう乎。余は斷じて此く信ずる事は出來ぬ。奮鬪して奮鬪して後に得らるゝものであると確信して居る。斯くして此の世を去る人に所謂餘光の有る死がある。小林富次郎氏が死する前一時昏睡狀態より醒めて、其後を嗣ぐ人に向つて最早商業の事には何も用はない、唯天に憬がれ、早く神様の許に行き度いと云つて非常に憧憬れて逝つた。是が永遠に至る生命の誕生である。肉體の生は死して地に化する、然し靈性の生は永遠の天に向つて旅立つのである。世は遷り人は變はれど我が靈は撓まず倦まず永へに天の父をぞ慕ひてぞ往く。

湯臺叢話（其六）

谷津直秀

二十三 フイレンツエにあるダビデの像はミケランジエロが餘程苦心の作で、完全な顔を造り出す爲に二年間殆んど人を避けて研究した。二年の後友人が彼に會つた時、友人の驚きは一方ならなかつた、夫は苦心の爲めにミケランジエロの怒り易い性質は穩和さなり、顔の輪廓さへも床かしくなつたさいふ事です。理想が吾々の身體及び精神に及ぼす力はひどいものです。

二十四 ポール、エ、ビルジニーで有名なモリシヤスの島に此外に有名なものがあります。夫はそこで餘程前に發行になつた印紙で世界に三つある。其一つは現今の英國の王様がプリンツ、チブ、ウエールスのさきに御買上になつたので、七百圓、其賣つた人は一の家を建て住んでゐる。人呼んで印紙の家さ云ふそうです。

二十五 植物學者のモシユー、ホニエーがストツホルムの野外で草を採集して居ましたが、他の一人が道づれさなり親しくすぐ舊友の如くなりました。ホニエー先生其人に晝飯を共にせんさ云ひますさ其友が「どうか私の所で」さ云ふ其から同道して行くに、宮城の門に來て入うさする、ホニエー大に驚きましたが、其友が曰く「御氣毒ながら私はスエーデンの王です。こゝより外君をもてなす所がない」。

二十六 有名な畫家のホイツテスラーに其友人の醫者が手紙をよせて一寸きて鷄の小屋を塗ることを乞ふた、ホイツスラー早速行つて塗りましがいつか機を見て敵を討たんさ思つて居つた、餘程たつて其醫者に急病なれば直にさ使をやつた、其人が來て見ろさ小犬の病氣でした。

想苑

かあやん

德富健次郎

一

今年正月の三日、都は新年の目出度賑合の中を、千駄ケ谷の横井家から黒布かけた棺が舁き出され、幡ケ谷の火葬場に送られた。かあやんの柩であつた。「かあやん」は横井家の人々の呼ぶ名である。實名は田上壽賀。肥後熊本の町家の女。二十六歲から横井家に仕へて、八十五まで、六十年間——終の十七年間彼女は盲目であつた——身も魂も主家に献げた希有の忠婢である。

壽賀女は二十六歲で横井家の婢となつた。弘化四年、横井平四郎先生は三十九歲の寒夫子、まだ妻子もなし、兄君の家に同居して、漸く小さな家塾を開いて居た頃である。彼女は初からたゞの奉公人ではなかつた。云はゞ文字の讀めぬ門人、滿腔の赤誠を先生にさゝげた。客座で酒が過ぎると思ふと、先生の手を曳ずつて歸ることもあつた。彼女が横井家に仕へて三年目に先生の第一夫人が來て產で亡くなり、翌年第二の夫人が來た。即ち横井氏及び海老名夫人の母堂である。母堂は壽賀女に四歲の妹であつた。たゞの女中ですら先から居付のは新夫人にとつて中々の重荷である。横井の新夫人は此困難な位置

に立つて、先入の壽賀女を終始立派に愛し通した。幸にして壽賀女も其愛に答へてよく其位置にとゞまるの謙遜と、先生及び先生に屬する一切のものを愛するの愛をもつて居た。愛はすべての罪を掩ふ。愛は一切の醜を美化する愛はあらゆる無理不調和を融かして了ふ。

二

當年の寒儒平四郎氏は年と共に人物と地位を上げて日本の横井小楠先生となり、明治維新の政に參與する身

となつて、横井の家運は今絶頂に近づくと思ふと、突然先生は刺客の手に斃れた。壽賀女は嘸殉死したかつたであらう。然しながら彼女は死ぬことが出來ぬ先生の子供がある、未亡人がある。彼女は絶望の勇必死の煩悩をもつて、先生の遺物の一家をかき抱いた。殆んど動物的の哀しい熱情を以て先生の紀念に執着した。未亡人は體が弱く、子女はまだほんの子供である。壽賀女は下女になり、姆になり、杖になり、力になり、一家

を牛の様に其背に引背負ふて身を粉にして働いた。本當の犬馬の勞、彼女の生涯は一貫したる犬馬の勞の生涯である。記者が横井家に關する最初の印象は、熊本城下堀端の家である。其家の小さな中庭の泉水に龜の子が居、座敷に切髪のお袋が二人居、其所には眼の窪い猫脊の中婆さんか居た。明治七八年の事である。切髪の老けた方は横井先生兄君未亡人で、年下の沈んだ顔のが先生の未亡人、臺所の中婆さんは壽賀女であつた。五十になるかならぬに、岩疊な彼女の腰は既屈むで居た。堀の向ふの古城が洋學校で、時雄氏は十八九の上級生、熱心の基督信者、海老名夫人は十三四のハイカラ女學生、記者の姉と共にAだのBだのと囀つて居た。

三

十年飛ふ。明治十八年の伊豫今治である。十年前の洋學生は、牧師として目ざましい成功をした。記者は熊本から來て横井家の厄介に、從つて壽賀女の世話になつた。彼女の書生を愛することは、一通りではなかつた。其主人思ひに到ては、殆んど言語道斷であつた。燠腿を作る、パンを焼く、二階で嚏が聞えると直ぐ脚湯の湯を沸す。夫人もあり、母堂もあり、伯母氏もあつたが、主人はひとへに壽賀女の有であるかの如く思はれた。お悦ちやんも「かあやん／＼」と壽賀女にばかりまきついた。彼女は渾ての者の「かあやん」であつた。斯様に忙しい中から、會堂には缺かさず出る、記者を捉へては機嫌とり／＼聖書の素讀を習ふ。根氣のよいのに、毎々弱らされたものだ。臺所で皿小鉢をかちや／＼させながら、盤臺を頭にのせた肴賣の噂や女を捉へて、「神さま」だの「罪」の「十字架」のと傳道して居ることもあつた。

四

同志社の禮拜堂が眼に浮ぶ。明治二十年の正月である。壇の下に白布を覆ふた棺がある。中に横井夫人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

峰子が眠つて居る。横井家は其前年今治から京都に越して、年が明くると間もなく夫人は平馬君を生み落して亡くなつたのである。新島先生の葬儀說敎が濟むで會衆は早立ちかくる雜沓の中を「かあやん〳〵」と女の兒の聲が響く。母に別れた四歲のお悅ちやんがはぐれて「かあやん」を探がす聲である。其夕である。棺は南禪寺の横井先生の墓側に葬られて、今讃美歌が夕闇に響いて來る。山門前の松並木の蔭には、媳の看護に疲れ切つた母堂が腦溢血で車から落ちてやう〳〵扶けのせられて居る。一人の老女が狂人の樣になつて、己が羽織をぬいで母堂の脚を包むで居る。提燈の薄あかりは、半死の母堂と絕望の「かあやん」を影の樣に見せる。

五

横井家は其夏東京に移る。新夫人が來る。「かあやん」は平馬坊を負ひお悅ちやんの手をひいて幼稚園に通つた。お悅ちやんが縋るので、「かあやん」の着物の腋はいつも綻びて居た。明治二十六年横井氏再度の洋行について、母堂と「かあやん」と二人の子女は神戸の海老名家に往つた。間もなく「かあやん」は劇しい眼病に罹つて、到頭盲目になつた。眼がつぶれた時、「かあやん」は今一目平馬坊の顏を抱き寄せたが、最早見えなかつた。四十八年の奉仕のあと、彼女は生きながら闇に葬られた。然し「かあやん」の十字架はまだ中々終らぬ。彼女が盲目になつた其年の暮、横井母堂は其子の歸朝を待ち得ずに永眠して了ふ。盲目の「かあやん」は其棺に縋りついて泣き口說いた。

六

母堂は亡くなる、先生の嫂君も其前東京住居中に亡くなる、横井家の昔の名殘は最早「かあやん」一人となつた。彼女は盲目になつて淋しい十七年を渡つた。十七年！　横井家の人々もよく面倒を見た。「かあやん」もよく辛抱した。昔から一刻も休みなく働

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いた彼女は、盲目になつても安息を偸むを知らなかつた。身體が利くかぎり、手探りで掃除もする、雑巾も刺した。彼女の刺した雑巾は、知邊の限に配られた。故母堂の創立とも云はるゝ婦人老人會には、彼女もよく出席して慰められた。四年前記者の父は基督を信じて、本郷教會で受洗した。横井先生の女婿たる海老名牧師が着到順から云へば先生第一番の門人なる八十六の翁に洗禮を施すのを、翁から三年後れて横井家に仕へた八十一の媼は見えぬ眼で見て莞爾々々して居た。

七

再度の洋行から歸つて來た横井氏は、次第に宗教から政治に入つて、政黨員、代議士、官吏、餘所目には頗る派手な生活をした。八十いくつの盲目の「かあやん」は、家が大きくなつたり、人の出入が多くなつたり、賑やかになつた容子を、大旦那の勢盛の夢繰りかへす心地で居たであらふ。俄然として日糖事件が足下から湧いた。横井氏は囹圄の人となつた。彼女は胸がつぶれたであらふ。「誰も何も云つて聞かせませんけれども、女中共が新聞讀むのがちよい〳〵耳に入るものですから」と記者に泣いた。彼女は獨で泣いて、日夜祈つて居た。日糖事件は横井氏の爲に一の分水嶺で、「かあやん」の爲には最後の十字架であつた。横井氏は精神的驟雨浴を受けて、獄中から出て來た。新生活の第一の果として、新著歐州近世史論が公にされる。ある時期に多少足を遠くして居た縁邊故舊が寄つて來る。前に良縁を得て嫁いだお悦さんは已に目出度母さんになつて、大學卒業を眼前に控へた平馬君も婚約が定まる。弟は優等無試驗で一高に入る。横井家の前途は光明である。こゝまで先途を見とゞけた「かあやん」は、安心して此世の闇から永遠の光明に往つた。今年正月の二日のこと、横井先生に後るゝ四十二年、夫人に後るゝ十七年である。

八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

長い永い奉仕を十分に十二分に勤め了へた彼女の安らかに眠る柩は、横井氏、平馬君及其弟達、海老名氏等に送られて、幡ケ谷の火葬場に往つた。六十五年前彼女は田上壽賀で横井家に來たが、其棺に揷入れられた竈の戸には、眞鍮の札に「横井壽賀殿」と書いてあつた。骨は平馬君が南禪寺の横井家墓地に葬るのである。「御墓の後があいとるから、お前は其處に埋めてやると旦那様が仰有りますから」と彼女は曾て記者に話した。其處に行くのが唯一の報酬の如く樂しんで居た。南禪寺、天授庵、崖からさし覆ふ樫の其實のこぼるゝ處、羊齒の露のほのかに光る處、横井先生は其處に眠つて居る、夫人も其處に眠つて居る、平馬君の亡母も其處に眠つて居る。新來の壽賀女を迎へて、樫の木蔭の情話はしんみりと賑合ふであらう。

黒砂の孝女

白鳥健

正月はまだ二日目の朝なり、今日は初賣出しだが、千葉の町はまだ眠つて居る、僕は黒砂の孝女を訪ふべく、今年十二になる武也を伴ふて、旭日の宅を出て、雪よりも白き霜を踏み、氷よりも冷めたき朝風を呼吸しつゝ、本町通りを舊江戸街道に向つた。登戸からは右は丘、左に袖ケ浦の靜かな海を眺めながら、まだ見ぬ孝女が家の様などを語合ひながら、今が丁度干潮なる波際を西へ西へと歩武を移し、豫て聞いて居た、千葉縣師範學校の附屬分教場まで來た、此處から縣道を右に折れると

△即ち黒砂の里である

僕は先づ區長の遠藤憲治氏の宅を訪ねた、主人は折惡しく不在であつたが、細君に會つて往訪の次第

を告げると、細君は夫れと聞いて大に喜び、夫れから區長代理者にも、區會議員の人々にも、僕が出張の次第を知らして呉れた。すると區會議員の遠藤辰五郎氏は、即刻やつて來て區內の狀態から、山本はつの祖先以來の來歷から、山本家の大小百般の事を古い戸籍簿を引合して、一々詳細に說明して呉れた。夫れから又孝女が家にも案內して、はつと其の病母たつとも引合して呉れた。時は丁度午前十一時に五分前であつた。はつは今濱へ働きに出て行く仕度をして、洗足で土間に立て病母に何か話して居る所であつた。はつは子供の折から濱にばかり働いて居た爲めであらう、顏は潮風にもまれて赤く、脊丈は女並であるが、骨格却々たくましく、一見した所頗る健康さうである。前齒の一本ならず二本まで缺けて居るのは、病母を養ふが爲めの長き間の奮闘の歷史と讀まれた。言葉は寡い方だが、何處かに力のある所もあり、

△信念の堅たさうな所

も見受けた、聞けば彼は子供の折、學校へ一日行つたでもなければ、文字一字知つて居るでもなく、近所の人以外には、世間の人とては、何の交際もしたことのある人ではないとのことだ。唯あまり廣くもない黑砂の濱で生れて、黑砂の濱で人と爲つたので、人爲の敎育とては直接にも間接にも受けた經驗のある人ではない、蓋し彼れが生活の智識は、彼れが自然の力であらう、又はつの家系は、其の起原あまり古しと云ふのでもないが、住家は甚だ古びて居る。古びたりと云はんよりも、寧ろ破ぶれ果てゝ居る。之を實見した僕には、其の二間に三間の破ぶれ家は、何よりも能くはつが家計の樣を說明し得たものと思はれて、何となく惻隱の情に堪へない。幾十年の間繰返したるべき風雨霜雪は、無遠慮にも薄倖なる母子二人が住家をして、痛く腐朽せしめて居る。卽ち戸も破れ、疊も朽ち、今は其の疊の姿さへも見えず、唯ウスベリの四五枚が極めて無作法に室內に行列して居るばかりであつた。此處で一寸はつが家系と來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歴の大要を述べて置かふ、はつは

△山本家の三代目の相續人

で、初代はらく、二代目がたつ、たつは即ち現代はつの母で、二十餘年來も重病の爲めに身體の自由も能はぬ人である。而して山本家を創立したらくと云ふは、同じ黑砂の山本清吉と云ふ人の娘で、父の家を分家して、矢張り山本姓を名乘つて一戶を構へたのであつた。らくは初め隣村なる稻毛の中村某方へ嫁し、たつ及び其の弟清吉の二子を擧げたが、夫中村某は稀有の好酒家で、家道日に衰へ、剩へ妻子に對して、虐待冷遇至らざるなく、妻らくは之れにはほとほと堪へ兼ねて、遂に復た黑砂の生家へ復歸した。夫れから獨力で辛くも一家を興して、長女たつと長男清吉とを養つて居たが、悲しむべし、淸吉は間もなく夭折した、其の後程經て、たつは人の世話にて、黑砂の宮路某の次男幸次郎と云ふを迎へて聟養子と定めたが、間もなく長女はつと次女くらの二女をもうけたるは、山本家の爲めに祝すべきであつたが、好事兎角魔多きたとへにて、幸次郎は如何なる惡魔に魅せられてか、最愛の妻と二人の兒を置き棄てゝ貧苦の桎梏を脫すべく、山本家を離別して、其の生家へと復歸されたのである。稼ぎても尙ほ不足勝ちなる山本家の米櫃は、如何で窮乏を免かれ得らるべき、爾來纖弱き母と、幼き女兒二人と老婆一人の當時四人暮しなる山本家の窮乏は更らに一段の窮乏に陷つた。(はつの妹くらは黑砂の某に嫁ぎ、老婆らくは明治三十四年の春、七十二歲を以て長逝した）幸次郎が離別の年月は今定だかならねど、確か次女くらが未だ父の顏だも見覺えの付かざる頃で、明治十二年の春の頃であらう、其の頃幸次郎は、東京に出て、今は淺草藏前に一戶を構へて、可なりの餠屋を營み居るとの話である。斯くて固より女の身の家計の苦勞身に過ぎてか、

△はつが十二歲の年のこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なり、母は血の病ひと云ふにて、ふと床に就いたが、初めの程は左までのことゝも覺えなかつたが、日を經て病勢は次第に重り、困窮の中にも手に手を盡して、療養を加へたれども、其の甲斐とては頓と見えず、遂に不治の症となりて、今も依然として病床の人であるが、二十餘年の病床の月日は痛く彼れが氣力と體力とを消沈せしめ、今は横の物を縦にするだも尚ほ能はざるのみか、殊に一風變りたるは、百度に近き炎暑の日とても病症の爲めか、寸刻だも焚火の暖を取らなければ、全身忽ちに冷え凍りて、病苦は一段と募るが其の特質である、况して三冬の日に在りては、晝夜爐に焚火を絶つことを得ざる程である。されば焚火の價丈けでも、細かなる日々の生計の過半をば、之に消費し了るの有様である、加之ならず日夜打續ける看護に、はつが稼ぐべき時間の八九分をば之に充てねばならず、母が病勢の募ると反比例に、はつが家計は漸く危機を叫ばざるを得ざることは、過去幾春秋の間、常に同一轍に繰返されつゝあるのである、斯くて貧苦と病苦と人乏しき中に立ちて、

△奮然毅然有ゆる患難と闘ひ

未だ曾て一たびだも母の意を用ゐざることもなければ、又病中に於ける醫藥と、母が好める物何一として之を缺きたることもなく、右手に病母を看護しつゝ、左手に其の日暮しの家計を支へ來り、支へ往くの有様は、はつにして初めて出來得べきことで、今の世の教育ある婦女の却て能はざるの業なるべしとも思はれて、一層床しく感ぜられた。併し、斯る薄倖なる家にも、又聊か天佑のなきにはあらず、そは他でない、母の打續ける病患に引換へて、はつは生來無類の健康なるが上に、濱に漁る業の最も巧妙である。はつは龍王と謳はるゝ丈けありて海老を釣つても、蛃蛤を拾つても、何をしても、短き時間に比較的多量な收得をするのには、誰れも及ばないので

ある。又雪の朝にても、雨の夕にても、看護の寸閑さへあれば則ち海に出て働き、風雨霜雪、日として彼れが姿の濱に見えぬ日とては、絶えて之れないのには、蓋し龍王も時に及ばないであらう。而して其の獲物を市に鬻ぐにも亦、一々母の病狀と其の許諾とを得て後、出て行くので、而かも此の漁業が母子二人の生命であるにも拘らず、看護の餘業であると云ふに至つては、何人も嘆賞を禁じ得ないであらう。斯くて二十餘年の間、世の幸福にあまり緣遠かつた山本家にも、今玆の一月ばかりは、思はぬ天運が囘ぐり來つた。卽ち

△はつが二十餘年の至孝

は、千葉町長加藤久太郎氏に依りて、月の五日知事吉森良氏等の面前に於て、公に表彰されたのである。其の表彰文は、善くはつが平生を寫したものであるから、乃ち全文を玆に紹介しやう。

千葉町黑砂百五番地
山本はつ

母たつ明治二十年より重患に罹り身體の自由を失ひ而も寒氣觸る病に害あり故に爐邊に籠り焚火に依りて暖を採り以て僅に其の苦痛を免かるゝを常とせしも暖氣なければ乃ち復た苦痛を感ずるを以て看護の傍ら母の許を得て日夜風霜を凌ぎ雨雪を冒して海濱に出て海老を釣り蜊蛤を拾ふて之を鬻き以て先つ母の好める物に換へ醫藥を求め且つ薪を買ふて暖を採らしめ其の餘を以て僅に米鹽に資し母に孝養を盡すこと玆に廿有餘年一日の如し其の至孝洵に感ずるに餘あり仍て町會の協賛を經て金拾圓を贈與して其の至孝を賞す

明治四十四年一月五日

千葉町長　加藤久太郎

はつの孝名は、此の表彰に因つて初めて世に表彰されたのである。今の時に於て、はつが如き敬すべき至孝者を出したのは、山本家の幸慶は言ふまでもなく、之を表彰した千葉町の爲めにも、又其の黑砂の爲めにも、甚だ慶すべきことである。蓋し世は形而下の進歩漸く熾にして、孝道些か頽勢を示すの時に當りて、何等最新文明の恩澤に接せざる、黑砂濱の一漁夫の子にして、又何等教育もなきはつにして此の孝行を見る、世の教育ある子女たるもの洵に恥づべき次第ではないか。尙ほ序にはつが生れて人

となつた。

△黒砂の一斑とはつが幼年時代

の一二の特色とを言へば、黒砂には今の師範學校の分教場を置かれるまでは、小學校もなく、區内の兒童は皆な隣區の登戸の小學校へ通學して居たのである。其の以前幕府の頃には手習師匠が二軒ほどあつたが、維新後は斯樣な家は一軒もない。宗教は黒砂百六戸の内で、僅に二戸を除く外は、悉く眞言宗である。祭禮と言つたら、淺間神社の夫れが毎年七月の十五日、稻荷社のが九月の十九日の兩度で、其の他には何にもない。近頃青年會が出來て居るが、あまり振つては居ないらしい。其の外には演説會とか、幻燈會とか云つたやうなものは、未だ曾て一度も土地に開かれたことはないと云ふことだ。恁んな工合で土地は宛然で太古のやうで、頗る質朴である。即ち純然たる農村で、唯海岸の一面丈けが漁農の兼業と云つた格である。斯樣な純朴な土地丈けに、はつ

の一家に對しても、區内の人々は却々深切を竭して居るやうである。今度も區長の遠藤憲治を始め高橋久太郎、高橋長吉等の有志は、はつが善行を表彰されたるを祝する爲めにとて、衣類一組を新調して之を贈つたと云ふことである。又はつは生來獨立自主な特質を有つて居る人で、是れまで區内の有志者から幾度か、金品の贈與を提供されても、一度も之を受けたことがなかつたと云ふ話である。又彼れは子供の折から極めて堅忍な美質を有して居た子供であるが、年頃になつてからも懇意な人抔が、聟を迎へるやうとて斡旋したものもあつたが、貧乏人の家へ他人が這入つては、却て母の孝養が十分に出來なくなると言つて、三十六歳の今日まで未だ一度も結婚したことがないさうな。要するにはつの全身即ち孝行の結晶である。彼れが心と彼が行爲の總ては、悉く皆な孝道の實行である。蓋し世に人の子の在らん限り、孝女山本はつの名は、益々香しく、且つ輝くことであらう。（一月二日稿）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現代小說雜話

小山東助

記者曰、本篇は嘗つて本郷教會婦人會にて小山氏がなされし一席話の概要で、一教友が筆記して送つて下すつたものであります。家庭に入れる可き小說の可否撰擇などに注意しておいでになる方々にとりては誠に絶好の指針と思はれますから、掲載する事と致しました。小山氏の御諒承を願ひます。

我々は身體の食物を取ると同時に、又精神の食物をとらねばならぬ。身體の食物は婦人の專門であるから云ふに及ばぬとして、精神的食物の事が案外等閑に附せられて居る樣である。精神的食物とは別事でない、卽ち宗教道德科學文學などを云ふのである。其中最も汎き感化を及ぼす者は、小說戯曲の類である。之等の目的は何かと云ふと、從來のものは全然娛樂として書かれたものと、又其小說戯曲を通して何等かの教訓を與ふるものと二があつた。例へば近松や馬琴やは其描寫する事件の中に、勸善懲惡の意を偶して書いて居る。昔から傳來したお伽噺なども悉く教訓を吹き込む樣に出來て居る。畢竟文學の目的は娛樂と教訓とにあつたので、無論其時代々々に應じて、或は士氣を鼓舞したり或は好尙を示導した等種々の感化影響は充分に認められるが、之と同時に全然娛樂を目的とした作物には、卑猥の分子が表はれ、教訓を目的とするものは型にはまつて仕舞つて、千篇一律で自由なる感興を殺ぐと云ふ缺點があつた。

然るに明治時代になり、殊に最近日露戰爭以後に於ては新興文學が現はれて、從來の文學は其調子を一變するに至つた。卽ち天下文學の趨勢は自然主義といふ名稱の下に遽然として蔽はれて仕舞つた事は世人の既に熟知する處である。此自然主義は日本にのみ特に興つたものではなく、寧ろ歐米に起つた思潮の傳來したものである。

今日の小說家を大凡に別けて見れば、先づ新舊二派に分ける事が出來る。舊派には小杉天外、廣澤柳浪、幸田露伴氏などが屬する。新派は又二派に分れて、自然派、理想派とする事が出來る。其前者には森鷗外、田山花袋、島崎藤村氏等、後者には坪内逍遙、德富芦花、夏目漱石氏などが屬する。舊派の小杉、廣津兩氏の作物には一時人口に膾炙した小說もあまたあるが、家庭を本位と云ふならば、讀まなくとも敢て差支はなからふと思はれる。然し幸田氏の作物には立派なものがある。「風流佛」「五重塔」等は後世に遺る傑作であるから、明治の文學を味はんとする者は必ず忘れてならない小說である。坪内氏のは家庭の讀物として推奬して可なるべく、特に夏目、德富氏等の作物は何人が讀んでも害にならない處か、平生之れ位のものを讀んで置かぬと、現代に棲息して寧ろ沒趣味の譏をまぬかれぬであらふ。青年子女の情操や理想を知るには大に參考となるべきものであるから、示導者の位地に立てる父兄及上長は讀んで置く必要がある。

自然派のものは深重の考慮を以て讀まなければならぬ。自然派の人々は娯樂として小說を書くのでなければ、敎訓を與へやうとしてかくのでもない。且つ人生の理想などいふ事は空な幻のやうなものだ、吾々は傳來の囚はれた理想から、全然脫却して、自分自分が觀ずるがまゝ、僞らず飾らず、あるが儘の現實を包まず隱さずに描寫するのが、小說家の正直なやり方であるといふのが自然派の人々の主張である。今日青年の大部分は此考に動かされて居る樣である。

例へば田山氏が「生」「緣」「田舍敎師」には殆んど自分自身の事をかいてある。又氏の「蒲團」は當時物議をかもした作物で、中年者の寂しい心とか又は中年者の戀とかを赤裸々に所謂突込んで書いてある。描寫の大膽であるといふ事は許す事が出來るけれど、然し其根本思想の不健全なるが爲めに、特に思想の固らぬ青年を誤る事がないとは限らぬ。否な大に彼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

等の道德心を弱める事と思はれる。鷗外氏は多く外國ものを紹介さるゝ點に於ては感謝す可きであらふが、然しそれが悉く自然派的のものであるから注意を要する事である。同夫人森しげ女史の作物に出產の狀態を細かに描寫したものがある。かゝる事は人の前に云ふ必要もなく、隱すが人類の約束としてある事を公にさらけ出すといふ事は健全とは云はれない。女流作家の大塚楠緒女史は女として斯る事を書くは如何なものであらふと疑つて居られるのも尤もな事で、森氏の作物は成熟しない人に讀ませるのは考物だと思ふ。

自然派の特徵は第一あるがまゝの現實を如實に描くといふ事にあるのだから、從來人の筆を染なかつた人間社會のきたない汚濁卑猥をかいて、之が人生だと說明する。第二には信仰道德は傳來的思想の形骸に過ぎぬ。假相である幻であるから、吾人はよろしく現實にのみ卽すべきであると云ふので、大分破壞的思想が溢て居る。此思想は「ほとゝぎす」に出た竹田といふ一女子のかいたものによく現はれて居る。親は自分等の勝手に子を生んだのだから、子が孝行する必要がない、と云ふのである。此小說のために「ほとゝぎす」は發賣禁止になつたが、併しかゝる思想を抱いて居る人は此人一人でない、今の青年の子女の中に隨分此不健全なる思想にかぶれて居る人があるといふ話である。現今社會の狀態がかゝる思想を惹起する源を藏して居ると思はれる處があるから、一槪に云ふ事も出來ぬが、かゝる利己的な破壞的思想はゆゝしき社會の大問題であるから、大に愼重の注意を拂はねばならぬ處と思ふ。

田山氏の「わな」には夫婦はわなに懸つたようなものである。夫婦の愛などゝ云つても肉慾の滿足に過ぎない、女子に對して根本的の貞操を求める事は出來ない、神聖といふ事は夢にもないと云ふ思想が描いてある。若し女子の信用が根本的に空しく、貞操も何にもあてにならぬと云ふ事なら、家庭は成立しない、之より大なる社會問題はないだらふと思はれ

る。永井荷風氏の「祝杯」には婦人を弄遊ばうが、世の中にさへ知れなければ立派に世渡りは出來る、神の審判も何にもないと云ふ思想がかいてある。青年の男女が斯様な思想に囚はれたら一大事だ。

是等小説に對して母姉たるものは如何なる注意を取る可きであるか、此處が思慮を要する處である。勿論高等女學校以下の生徒時代には小説を讀ましむる必要はあるまいと思ふ。それ以上の年齢學力を備ふる者には寧ろ積極的に讀ましめた方がよからふと思ふ。但し之には教師か又は母姉の嚴密なる撰擇が必要である。然し之には子女の思想を了解する事が必要である。子を知る親に若かずと云ふ語は必ずしも現代に當てはまる事ではない、今日社會の思想の變遷は非常に急激であつて、先へ〳〵と流れてやまぬ。此際自分の思ふた事を以て子女の心中を推するは困難である。夫故子女の思想を了解せんとならば、子女の机上にある此等の書籍を讀まねばならぬ、少女世界を讀んで居る子女を有する人は、先づ宜しく少女世界を讀まなければならぬ。

風雨激しい此世の中に、溫室で培養した花を育てやうとする事は無謀の事である。寧ろ風にも折れず雨にも碎けぬ强い素質を與ふる事が必要である。自然派の小説中には社會の缺陷人間の弱點が遺憾なく描かれて居る、之を讀ませ放しにして置く事は無論よろしくないが、之より教訓と示導とを與ふる親切と時間を有し得る人ならば、讀ませて一向差支がない事と思ふ。人生に對する不滿足、女性に對する不信用などは此頃の自然派小説の根本材料であるから、此材料を基礎として將來の覺悟を造らしむる事は恰好の教訓法であらふ。

いづことも春の光はわかなくに
まだみよし野の山は雪ふる　（躬恒）

清國人のお正月

片山幽吉

清國のお正月は未だ陰曆によつて居るから、此原稿が間に合つて二月號の新女界に載る頃丁度お正月騒ぎをやつて居るのだから、萬更時世何れの記事でもあるまいと思ふて之を書いて送る、記者足下幸ひに之を諒せられよ。

所かはれば風もかはるで、地方々々町々でお正月騒ぎも違ふのである。例せば東京のお正月は初日の出拜みで、ドンナ寐坊助でも日出迄には起きるのが習慣である。之に反して京都になると、先づ元日の午前中は戸を閉ぢて寐る者と定まつて居る。之は其昔紫野一休禪師が杖の先に髑髏をさして、

門松や冥途の旅の一里塚
目出度もあり目出度もなし

とやらうなつて、托鉢に歩いてから、御幣かつぎの京都人は、皆目を閉ぢたと云ふ事が抑々の始原とやら、ソンナ事はどうでもよいが一體に朝寐するのである。今清國人はお正月には東京式に朝起するか京都式に朝寐をするかといふに朝起き所か所謂

△寐正月

をするのである。而して此寐正月が例の支那式に素敵なのである。

先づ清國の年中の大祭はお正月に五月節句、も一つは八月の仲秋である。無論五月節句や仲秋も振ふが、矢張り一番振ふのはお正月である。お正月に先だつ一週間二十五日頃迄に大節季の支拂ひをすまし、又例の苦力の遠征隊は各多少の貯蓄を携へて各家に歸り、夫から此一週間にウント

△御馳走を作る

御馳走は日本人の様にお餅に數の子お屠蘇にゴマメ位ひでは無い。何分にも一月元日より一週間七日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

正月迄は、一切食物は作れない、皆前以て準備をして置いて單に居喰ひをするのである。之を知らぬ日本人は是迄度々此時に買物に出て食物が無くて困つたのである。さて此御馳走の献立は如何にといふに、第一に御飯は拔である、無論支那人は餘りに多く米は喰べない。之が爲か脚氣病患者のあるを聞いた事は無いが、其代りにアンや肉のは入らない饅頭を作るのである。之は支那人の古代から日本の饅頭の始原として有名だが、之を大きく作りその表に赤の斑點等をつけて居る。中には之を多數に積み重ねくつつけ合せて、一種の饅頭の捧を作り之をかついで悠々と歩き居る樣は、小さき大砲をかついで居るかの觀がある、之を毎日蒸して一家族悉く喰べる。夫からお菜の方は

△豚肉が主である

西洋人の牛肉支那人の豚肉日本人の魚肉、之は世界の三大御馳走であるが、英語國人がクリスマスに

七面鳥を喰べ、日本人がお祝ひの時に鯛を喰べる樣に、豚肉は又支那人のトルキー、鯛である。故に此お正月にはどんな貧民でも之を喰べる。平素は一盃二厘の粟の粥に腹鼓を打つて居る連中でも此時は大奮發で豚肉を喰べる。中には小豚の丸煮をやるが、之はナカ／＼見事な者である。之を家内中でつゝいて喰べる其光景は一寸見物である。此他種々な御馳走はあり又高粱酒やら燒酒やら、祝意を表して呑むが、何れも日本酒の樣に酒精分が小ない。之が爲かも一つは例のケチン主義から來た者か、新年の廻禮に日本人の樣に醉つぱらいの持て餘し者の居らぬはナカ／＼感心である。此點は日本人は大に改めねばならぬのである。支那人に劣つて居つては面目無い次第である。

サア此御馳走の準備が出來ると一月一日から呑んでは寐、喰べては寐むる。其狀は鱶にも似たるか、彼等が鱶のヒレを好むはマサカこゝから來た譯でもあるまいが、併し支那人の寐る事は非常な者である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

古から八時間寐八時間働らき八時間遊ぶ之が一晝夜の時間割となつて居るが、支那人は大抵十二時間即其の半分は寐る樣だ。ナンボ寐正月でも禮を缺いては行けない、殊に禮儀三千威儀三百の清人に取つてはお正月の禮又ナカ〱大切である。彼等は先づ

△一家中のお正月の禮

をやる、之は階級によりて違ふが、儒家なれば第一孔子の位牌に叩頭をやる。夫から孟子曾子といふ順序になつて居る。併し他の方では其家の祖宗の靈位を祭るし、又は天神地祇を祭るのである。之等は大抵日本と同じだが、支那人は天皇陛下の萬々歳を祝する事はない、之は大に日本と異なれる所で、如何に日本は皇室と國民との關係が深いかを示すのである。これは永久に持續し且大に其意義を擴大したいものである。此家族のお正月の禮が濟むと今度は親戚知己へ廻禮をやる、日本では名刺廻禮をやるのはそう古い事では無いが、支那ではズート古代から

△名刺廻禮

をやつて居る、夫を今迄繼續して居るが、一體に文字を重んずる清人は、訪問するにも肩書ある名刺を出さぬと、一向取次いでも呉れない。之は大變よい習慣である。ドコの何者とも分らぬ者に突然遇つて如何なる事を仕出かさるか知れないのだから、かく叮重に名刺を以て人を訪ふ事は支那には昔から必要であつたのである。所が其名刺は頗る振つたもので、其大さは幅三寸に長さ五寸位のが普通、夫は木版で李福生業と大々的に印刷されてある。若し官吏の名刺と來たら幅五六寸に長さ一尺以上もあらん、之を意氣揚々配付する所は又奇觀である、大官連になると一人名刺持の從者が居るのである。

かくお正月の禮がすむと遊びに出る。小供は種々の凧飛ばしに大人は宮參りをやる、天津でも娘々宮といふ道教のお宮は非常な人出にて、往來の人は皆土踏ずである。ナカ〱淺草前の騷ぎでは無い。其

外では例の芝居見物である。之は後日紹介し樣がナカ／＼面白いのである。其他東京の淺草、京都の四條、大阪の千日前といふ樣な所は非常な賑ひである。かく遊び廻り浮れ盡して、少しお腹がすくと、家に歸つて又したゝかに喰べる。夜に入つて遊び事が無いと今度は八々をやる、最近は公然之をやるのは法律で禁じられてあるも、お正月丈は特に許してある。之も男丈では無い、女が大にやるし、又上手な樣だ。併し之は日本の歌留多と見たら大誤なしである。かく退いては八々と喰べる夫から寢る。出ては見物する、歩む、之が支那人のお正月の狀態である。併し夜分になると無數の爆竹を鳴らすのである。北京では故西太后が大變之を好まれし故、夜中寢むれ無くて閉口したそうだ。西太后の爆竹は北京の一名物であつた。

△七五三飾

淸國人のお正月は大略こんな者だが、最後に七五三飾に付て一言せば、日本の樣に門松とかオナガユヅリ葉に七五三繩等と洒落れた者は無い。門頭に吹き拔きに切つた赤紙を釣るし、門扉には堯雨舜風、文政武道等と何れも支那古代の善政美風を偲ばしむる樣な對句、若くは財源豐富、生財有道等と隨分銅臭の高い者もある。而して出口のつき當りには出門見喜とか門外悉福等の文字が必ず見える。之は專門に販賣して居るのを買つて來るのだそうだが、何れも赤紙にして中には見事な筆蹟もある、夫から各自の商賣道具等には必ず穴のある錢形に切つた黃紙が糊付してある。以て如何に新年早々からお金崇拜をやるかゞ分かるのである。

以上淸國人のお正月中其特色を擧ぐれば第一時日の長く一ケ月に渡る事、第二には非常に喰べて遊ぶ事、第三には從つて彼等の心機を根本的に一新する事である。今や我が日本では段々西洋にかぶれてお正月のお祝ひも薄れ行かんとする時、淸國の此お正月を一瞥するは又無用の閑事にもあらざるべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

白雪姫

くすを生

昔々、鳥の毛のやうな雪が降りしきつてゐる冬の最中の事、ある皇后様が黒檀の椽のある窓邊に座つて縫物をして居られました。そして雪空を見上げる柏子に不圖針で自分の指をお刺になつたら、血が二三滴雪の上に落ちました。處がその深紅の血の色が眞白の雪に對して、誠に美しく見ゑましたので、皇后様は血潮の様に紅で、雪の様に眞白な、窓の椽の木の様に眞黒い髪の兒か一人かあつたなら如何に樂しみだらふと心の中に思はれました。すると間もなく皇后様は一人の女兒をお生みになりました。其の兒は雪の様に眞白く血潮の様に紅で、黒檀のやうに黒い髪を持つて居る兒であつたので、白雪姫と名をけました。其兒が生れると直ぐに不幸にも皇后はおかくれになりましたので、一年の後王様は後添の皇后様をお迎えになりました。非常な美人でしたけれども驕慢で、我儘で、世の中に自分程美しい者はないと思ひ込んでおりました。此の新らしい皇后様は不思議な鏡を持つておいでになりまして、其鏡を見て

鏡よ鏡、壁にかけた鏡
國中で誰が一番奇麗だい

と皇后様がお聞になると、鏡は

皇后様、此國ではあなたが一番美しい、

と答へます、此鏡は決して詐を云はぬ鏡ですから、それを聞いて皇后様は大滿足の體で御座います。

然るに白雪姫は生長するに從つて益々美しく、何とも譬へ様のない美しい、少女となりました。皇后様などは迚も及びも附かない程なので、皇后様がある時鏡に向つて、

鏡よ鏡、壁にかけた鏡
國中では誰が一番奇麗だい、

と聞きますと鏡は

皇后樣此處ではあなたが一番奇麗です
けれども白雪姫はあなたよりもつと／＼奇麗です

と答ひました。

で皇后樣は、其時からと云ふ者は嫉妬のために白雪姫を憎んで／＼、晝も夜も最早じつとしてはゐられなくなりました。其處で一人の獵師を呼んで云はれるには、私はあの子を見度ないから、なきものにしてしまはふと思ふ。就てはお前あの子を殺して、其證據にあの兒の肺臟を取つて來て見せてくれとお命じになりました。何と云ふ慘酷な事で御座いませう。そこで獵師は白雪姫を家から連れ出して、罪もない姫の胸を獵刀で刺さうと致しました時、姫は驚き泣いて二度と家には歸らないから、何卒命だけは助けて下さいと願ひますと、獵師も流石美しい姫に劍を當てる氣にもなれず、そつと姫をば逃してやり、丁度よく若い獸が跳ねて來たやつを捕へて究き殺し、其肺臟をとり出し、僞つて其證據として皇后の許へ持つて參りました。

可愛相に白雪姫は唯た一人、大きな森の中にとり殘され、道もなき荊叢を辿り／＼て、轉びつ起きつ當もなく晩方迄も歩いて居りますと、天の惠か、其處に一軒の小さな家を見つけましたので、一休みしようと内に這入つて行きました。

這入つて見ますると、家の中は中々よく奇麗に飾つてあるけれども、凡ての品物が恐ろしく皆小さい白布で蔽つた食卓があつて、その上には小さな七つの食匙やナイフや肉刺や盃などありまして、夫々うまさうな御馳走が入つて居りましたから、姫は其中から少しづゝいろ／＼の物をとつて食べた後、壁の側に七つの小さな寢臺が列んでゐた其一つに、綿の樣に疲れた身體を投げいれて、すや／＼と寢込んで仕舞ひました。

日がとつぷり暮れて仕舞つてから此家の主人が歸つて來ました。主人と云ふのは七人の侏儒で、山で鑛物を掘るのを職業として居のでありました。燈を點つて見ますと、家の内が出て行つた時と少し變つ

て居りますので、七人の者は皆不思議がつて、そこらを見廻し、自分の麺麭が少しになつてると云ふ者もあり、野菜がないぞと云ふ者もあります。それも其筈で先程白雪姫が各自の皿から少しづゝ御馳走になつたからであります。七人の一

人が不圖寝臺を覗きますと何だか人らしい者が寝てゐるのを見つけ、叫び出したので七人の者は七つの燈を持つて寝てゐる白雪姫を照してみますと、一同一緒に「まア何といふ可愛兒だらふ」と叫んで、非常に喜び、そして、夜が明くるま

で其兒を起さずに寢せておく事に致しました。

明くる朝、白雪姫は眼を醒して、此等の七人の侏儒を見て、びくりした樣子でしたが、然し彼等は非常に親切で、如何して此家に來たのかとやさしく尋ねますので、姫は繼母の皇后が自分を殺さうとした事から獵師に助けられた事など、一部始終を物語つて聞かせました。七人の侏儒は姫の話を聞いて氣の毒に思ひ、家事を手傳つてくれるなら、何不自由なく此家に置いてあげようと申してくれますので、姫は心から喜んで之に應じて此家に止まる事に致しました。

七人の者は朝出たつきり晩方まで歸つて來ませんので、晝中は白雪姫獨りぼつちになりますから、七人の者はくれ〴〵も此隱れ家に潛んで居る事を知られないように、又決して誰れも家に入れないように固く姫に命じて置きました。

話變つて皇后樣は最早白雪姫は生きてゐない事と思ひ込んで居りますので、又もや自分が此國では一番の美人だと思ひ、例の鏡の前に立つて、

鏡よ鏡よ、壁にかけた鏡
誰れが一番立派だい

と聞きますと、鏡は

此處ではあなたが一番奇麗です
けれど山の向の七人の家にゐる
白雪姫はもつと〳〵美しい。

此の言葉に皇后樣の驚は申し樣もなく、まだあの惡らしい白雪姫が此世に生きてゐるものと見える。何うかして殺さなければならぬと、此處に又一つの考を廻らして、顏や容態をまるで變へて、年寄つた物賣婆の姿となり、山を越えて七人の侏儒の家に行き甘い言葉で姫をだまし、帶紐を賣ると見せて、手早く其紐で姫の喉をしめましたので、可愛相に白雪姫は息が斷えて斃れましたから、婆さんは今度は大丈夫と急いで其場を立ち去りました。晩方になつて七人の侏儒が歸宅して見ますと、可愛いゝ姫が倒れて居るので吃驚し、抱き起して紐を切り、いろ〳〵介抱致ますと幸にも姫は息を吹きかへして來ました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そこで侏儒は前後の樣子を詳しく聞き「その物貰婆さんは鬼の樣な皇后に相違ないから、之から以後よ自分等の留守中には何人でも家に入れてはなりませんぞ」と嚴しく命じました。

惡心の皇后は早速家に歸つて鏡の前に立ち

鏡よ鏡、壁にかけた鏡
誰が一番立派たい

と聞きますと矢張り前と同樣に。鏡は

此處ではあなたが一番美しい
けれど山の向の七人の小家にゐる
白雪姫はもつと〳〵美しい

そんなら憎い雪姫はまた生き返つたのかと思ひますと、皇后の身體中の血は沸返へるやうになり、おのれやれ、生かして置いてなるものか、今度こそは命に賭けても殺さにやならぬと身をふるはせて怒りました。そこで一つの毒の林檎を作りました。色と云ひ艶といひ非常に美しいもので、見れば誰でも手が出したくなる位に出來上りました。早速自分は百性婆と姿を變じ、例の七人の小家に行き、ホト〳〵と戸を敲きますと、姫は窓から首を出して、此家には誰も入れる事は出來ません、と云ふと、老婆は、イヤ入れて戴かなくともよろしい、此の上等の林檎を一つあなたに上げませう、ナニいりません、て、そんな事を云はずに食つて御覽なさい、非常においしい林檎ですから、若し毒でも入つて居ると疑つて居らつしやるのかも知れないから、二つに切つて半分づゝいたゞきませう、それ、白い方は私が食ますから、赤い美しい方をお上んなさいとすゝめました。此赤い方の半分に毒が入れてあつたのであります。白雪姫は老婆さんが喰べ始めたのを見て最早堪えられなくなり、赤い半分を喰べかけますと、見る間に倒れて死んで仕舞ました。老婆は凄い目で此有樣を見て、悦しそうにカラ〳〵と笑ひ、今度こそは七人のものも助ける事は出來まいと喜んで家に歸り、早速鏡に尋ねますと、鏡は

あなたが一番奇麗です

といふ答なので、皇后は大願成就した、やつと之で

一安心だと喜びましたとは、全くの鬼で御座います。晩方七人の者が歸つて來て、倒れて居る姫を見て又かと驚き出來るだけの介抱を一生懸命に致しましたが、こんどは全く死んで仕舞つた樣で、如何しても息を吹きかへしませんので、彼等は全く悲みに沈んで、三日間といふものは姫の死骸を取圍んで泣き暮しました。不思議な事に姫の死骸は生前と少しも變らず、紅の頰の色のあざやかさは誠に美しう御座います。彼等は姫を黒い地中に埋める氣になれず、美しい硝子の棺を作つて、それに姫を入れ、金文字で白雪姫と書し、併せて王樣の娘であるといふ事も書き添へまして、之を山の上に据え彼等の內一人づゝ警護の爲め番をして居りました。

處がある日一人の皇子が其山に通りかゝり、其棺と文字とを見て驚き且つ可愛相に想ひ、侏儒のいやがるのを强いて其棺を讓り受け、從者に荷せて國の都に運ばせまする途中に從者が木の株に躓いて棺を非道く搖つた。其時、不思議と云はふか、天運と言

はふか、白雪姫が一口嚙み切つた林檎のきれが喉から飛び出したので、毒も自然と消ゑたものと見え、自分で棺の蓋を差し上げて、まア大變だ、私は如何したんでせうと叫びました。皇子と從者は一時は大變驚きましたが、本當に生き返つた事が分つてからの喜びと云ふものは譬へ樣がありません。いろ〳〵事の仔細を姫に語り聞かせて、其上申しますのに、私は何よりもあなたを愛らしく思ひます。心配せずと私と一所に父の城においでなさい、私の妻となつて行末樂しく暮しませうと云ひました。白雪姫は皇子の親切を悄からず思ひまして、一所にお供をする事になりました。いよ〳〵お城についたのち二人は結婚式を立派に擧げる事になりました。その席には勿論惡心の皇后も招待されましたので、皇后は例の鏡に向ひ、

鏡よ鏡、壁にかけた鏡
誰が一番奇麗だい

と聞ますと、鏡は答へて

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此處ではあなたが一番美しい
けれども今度の皇后樣はもつと〳〵奇麗です

と云つたので、さア皇后の胸の中は又と嫉妬の焰で燃え立つやうになりました。それにしても今度の若い皇后を見てやらふと盛裝して結婚式に出かけましたが、其式場に這入るや否、今が今迄殺して仕舞つたと思つてゐた白雪姫が、天女の樣な光々しい姿で皇子の傍に立つて居たのを見て、恐怖と驚愕とが一時に胸に上つて、其場に倒れたなり、無殘なる最後を遂けました。（グリムのシユネーウイチエン抄譯）

頃は二月初の事なれば、峰の白雪村消ゑて花かと見ゆる所もあり。谷の鶯音づれて、霞に迷ふ處もあり。登れば白雪皓々として聳ゑ、下れば青山峨々として峰高し。松のゆきだに消えやらで、苔の細道かすかなり（平家物語）

小さい同情

孤　峰　生

多分僕の十一の時であつたと思ふ。父に死なれて未だ間か無いので子供心にも凡てが悲しくつらく、今迄春霞に包まれて夢我夢中に暮らした身が急に木枯に目醒めた樣に唯うろ〳〵淋しい道を辿るのでした。其頃僕と同じクラスで而かも同じ机を竝べた友達に善ちやんと敬ちやんと云ふ二人がありました。善ちやんは性質が温順過ぎる程温順で惡まれ者の誰彼からは女々と云つて冷嘲された。有り體に云ふと斯く云ふ僕も其惡まれ口を叩いた樣に覺えて居る。がそれに反して敬ちやんは大の腕白で餓鬼大將の方でした。今は何でも海軍に居るとか云ふ話。その敬ちやんと善ちやんとが或日二人揃つて仔細ありげに僕の側に倚つて來た。而して先づ敬ちやんが口を切つた「○ちやん君の家では御父さんが死んで後は怎うして行くのだ」と何時に似ぬやさしい顏。善ちやん心配相に僕の顏を見て居る。僕は未だ小供の事後は怎うして送るやら分らう筈もない。が自分の家に多少の財產のあると云ふ事だけは知つて居た。秋になると二里ばかり隔てた村から善兵衞だの伊助だの云ふ小作人が馬に俵をつけて來る事や、名は忘れたがちよん髷を結つた何とか云ふ爺さんが暮には米を持つて來ないで態々正月になつて馬を引込んで御目出度を冒頭に去年の不作などを話し乍ら御馳走酒に醉ふて歸ることなどを思ひ出したので、何となく直困ることもあるまいと思つて唯「大丈夫」だと答へました。併し友の二人はその答に滿足しないで追求して尋ねる。けれども口下手の自分は嬉しい樣な悲しい樣な思に胸がつかへて答の仕樣がない。それを友は怎う思つたのか「君心配せなくてもいゝよ、これから僕等二人の辨當の菜を分けてやるから君は菜を持たずに御出」としみ〳〵と云ふのです。僕は最早堪らなくなつて思はず顏を机に埋めて唯感謝に泣きました。その恩は遂に忘るゝ事が出來ない。善ちやんも敬ちやんも今年は二十七、ひよこり遇つて昔でも語りたい。

家庭

幼年時代の宗教々育

兒童の時から宗敎々育を與ふ可きか、又は施すべからざるか、此の問題の解決は洵に大切なる事で兒童其人の將來の信仰品性を形成する上に至大の關係があるのみでなく、從つて又次代國民性の內容にもさし響いて來る事でありますから、識者の眞摯なる研究を要する所であらふと思ひます。基督敎では已に日曜學校に於て此宗敎々育を施して相當の功績を擧げて居るでありますが、敎育當局者や、又は一般の父兄にして、這種の敎育を全然輕視するのみか、却つて之を拒止しようとする向があるとは、吾々の意外とする處であります。日曜學校の敎授法や敎程などに就いての議論は別問題として、兎に角兒童時代に於ける宗敎々育は如何にすべきかといふ事に就ての先輩諸姉の御意見を發表して讀者諸姉の御參考に供し、かたはら輕視されて居る宗敎々育に就ての注意を喚起したいと云ふ希望で、此度の家庭欄を編輯した次第であります。（記者）

完全なるお手本

宮川壽美子

小供の宗敎敎育と云ふ事を平たく申しますと、小さな時から、神樣のやうな立派な御性格を、小供に

紹介し、敎へ込んで、一生の御手本となし、御友達とする習慣をつける事で御座います。

なぜ、この立派な方を御手本とし、御友達とすることが必要であるかと申しますと、神樣の如き完全なお方を前において、自分を比べて見ますと、自分の足りない事がます〳〵明かになり、ます〳〵謙遜になる事が出來るからで御座います。かういふ立派なお手本を前において、自分を省みますと、實に耻ぢ入つて、これではならぬと、ます〳〵修養を勵むやうになります。たとへば

丈の高い人と丈比べのやうなもので御座います。丈のずつと高い人の前に參りますと、自分の丈の低い事がよく分りますので、傲慢にならうと思ふてもなれませぬ。精神上の丈比べも同じ事で御座います。そして、己れの足りない事を知れば知るほど謙遜なることが出來ます。人は一生懸命に世を送ると云ふ事が、眞に大切な事で御座います。私のすきな那須野與一なども實に謙遜な人で御座いました。屋島の浦で、大將義經より、扇の的を射よとの命を受けました時、並み居る將士皆與一

を代表者とすれば安心と思つて居りますのに、與一は、此の大役などどう致しませう、どうぞおゆるし下さいましと辭退いたしました。それでも、それほどの謙遜の人なればこそと云ふので、斷りがたちませんで、いよ〳〵的に向ひました。その時、與一は、郷里那須野ヶ原にては飛ふ鳥をも射落したる我が弓勢、たかが竹のさきにはさみたる扇一つとは思ひませんでした。與一は、命懸けで神に祈りました。もし、私が過ちましたならば、私の不面目は致し方ないとしても、味方の不名譽をなんと致しませう。どうぞ、その時には、たちどころに、此の身を波に沈め給へと、軍神なる八幡宮や、氏神様に、一生懸命祈願をこめました。この謙遜な態度、此の眞率な祈誓、皆小さな時からしみ込んで居る宗教心があらはれたものと存じます。もし、軍神や、氏神様が、頭の中にしみ込んで居なければ、其大事の前の瞬間に、八幡様を思ひ浮べる事は出來ませんでしたでせう。

日露戰爭の海軍司令長官の東郷大將の如きも、大層御謙遜な方とうかゞつて居ります。凡べて、人は、謙遜でなければ、何事も出來ぬと存じます。人が用ゐて與れませぬと存じます。また謙遜でなければ、研究も出來ませぬ。それと反對に、謙遜な態度で、勉強し、研鑽すればするほど、世の中の役に立ち、世の中に用ゐらるゝと云ふ事になつてまゐります。世の中に用ゐられ、事をなす人は、謙遜な、熱心な、命懸けの人であると存じます。かゝる種類の人になるには、どうしても、明け暮れ、神様のやうなお手本を前において比べてゆかなければならぬと存じます。また、かゝる立派な友を持つて居りますと、境遇を支配することが出來ます。よい境遇に居ります時は申すまでもなく、惡るい境遇に居りましても、この無上の友と共に居りますから、誘惑に陷るやうなことは御座いませぬ。それ故に、小供の時から、此の善美なる無上の友を紹介して、益々親しく、美はしく交らしむると云ふ事が、實に大切なことで御座います。これは、一生の寶を與へるものと存じま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。なぜ、小供の時から、神様を紹介し、神様を知らしむる必要があるかと申しますと、宗教に入るには、三要素が必要で御座います。第一、親切なる指導者、第二、其教を受け入るゝ謙遜なる心、第三、長い月日、これで御座います。小供は、此の大切な三要素を遺憾なく具備して居ります。第一の指導者は、母親と云ふ適當な人が御座います。第二の謙遜な心は、小供が十分にもつて居ります。第三の長い月日は、小供の時分からは最多くの月日をもつて居ります。

世には、やゝともすれば、宗教教育を大切に思はない人もあるやうで御座いますが、昔から、決して、日本に、宗教の感化のない事はなかつたので御座ります。祖先崇拜など、立派な宗教で御座います。今の若い人たちなど、つひ、佛壇の事などおろそかになるのもあるやうで御座いますが、神棚、佛壇をおいて、祖先を祭ると云ふ事は大切な事と存じます。英國のある大きな教會などでは、昔から、國の爲めに盡くした偉人傑士の大きな大理石の彫刻像が、によき／＼と立つて居ります。その像を見ます度に、我れも同じ英國人、いつか、あれ程の人にならではとの奮發心を起しますのです。さう云ふ考を起すたよりとなるのですから、どうか、我が國でも、佛壇とか、拜壇とか申すやうなものを、家毎に備へたいと存じます。

どうぞ、世の母親達が、學校教育に心を用ゐられますのみに止らず、それ以上の宗教教育にまで、考へを及ぼして、小供の爲めに、一生、無形の立派なお手本を紹介するやうに、心配していたゞきたいと存じて居ります。（鉄）

父母よりも神様

某夫人

私は、澤山の小供をもつて居りますが、小供を育てると云ふ事はなか／＼容易い事では御座いませぬ。

私は、小供は神様からお預りしたものと存じて居りますから、之れをどうか神の思召に叶ふやうな、神の道を踏みあやまらぬやうなものに育てゝゆかなければならぬと考へまして、誠に大きな責任を感ずるので御座います。如何にしてこの大責任を全うしやうと考へます時、どうしても完全なる善美なる神にたよらせなければならぬと存じますのです。よく世間のお母さんが小供が云ふことをきゝませぬ時に、「そんな事をするとお父さんに云ひつけますよ」と云はれるのをきゝますが、それはあまりおもしろくない事と存じます。私は神様といふ完全な全能なお方のゐます事を、なるべく早く小供に知らしめて、これを恐れ、これを尊び、これと親しましむるのは、最大切な事と存じますから、もう小供がものを云ふやうになりますと、神様のお話しをしてきかせますのです。「如何なる所にも神はおはしまして、お前達を守つて居て下さる、またお前達を見ておゐでになつて、善い事をすれば褒めて下さるし、悪い事をすれば罰を下さる。お父様、お母様のしらない事も、神様は知つておいでになるのだから」と申してきかせます。こんな風に申しきかせて居りましても、七八ツの時分は、智恵の發達が盛で御座いますから、つい僞など申すことが御座います。さういふ時には、「お前、そんな事をして、人が知らないと思ふて居ても、神様は、ちやんと御存じだから、母様が神様におわびをしますから、お前も一緒にお斷りをして下さい」と小供にたのむので御座います。さういたしますと、小供もほんとうにわるかつたと後悔いたしまして、心から神様にお詫びをいたしまして、だん々過をあらためてまゐります。こんな風に神によりたのませて育てゝまゐりますと、心の眞率な點、眞面目の點に於て、たしかにすぐれてまゐるやうに存じます。そして兩親の許をはなれました時、殊に神の恵を感じ、神をたよるやうになると申して居ります。遠方に修學いたして居ります長男など、「私は、神様と共にあるのだから、父様母様のおそばをはなれて

も決して淋しくない。また決して誘惑に陷るやうな事はない」と申して居ります。

今年六歳になります小供が、親戚にまゐります途中に、お寺の仁王樣を見まして、大層怖りまして、其後どしうてもそこを通りませんでした。それで、私は、あれは木で作つたもので決して恐ろしいものではありませぬと、よく云ふてきかせましたら、始めてわかりまして、それから恐れないやうになりました。こんなものでして、小供はどんなにも導く事が出來るので御座います。

こんな事今更申すまでもないことで御座いますが、親として、小供ほど可愛いものは御座いませぬ。出るにも、入るにも母樣々々と、しばしでも見えませぬとたづねあるくので御座いますもの。此の足りない身を、誰れがこんなに慕うてくれやうと考へますと、どうしても此の可愛いものを大切に、惡るくならないやうに、神の御心に違はぬやうに育て上げなければ、神に對しても、小供に對してもすまぬ事と朝夕心配いたして居りますので御座います。

幼時より宗教々育を施すべし

（子女教育に對する母の務）（其十二）

海老名みや

▽汚濁なる世の犠牲

宗教は自由である、信仰は束縛すべきものではない。時に及んでおのづから發して來るでなくてはならぬとは、ものゝ別つた方々からよく承ることでございまして、一應御尤な又高尚な御說の樣にきこゑますが、これは宗教といふ事の眞の意義を知らないからの御說であると思ひます。宗教々育とは何を云ふのでありましやう。宗教々育とは人間最上の靈能をはぐゝみ導くことで、人をして眞の人間と爲すことだと思ひます。乃ち人間に靈魂をいれることだと思ひます。體育も智育も人にとり大切なことである

さしますれば宗教々育は尙勝りて大切なことであります。しかして體育も智育も人が生れるや始まるもので、寧ろ、生れない前から始むべきものだとすれば宗教々育も無論母の胎内から始めなければならないことだと思ひます。父母の深い〳〵信念はおのづから其子に產みつけられ、又其家庭に滿ち充つる貴い靈氣の中に薰化せられつゝ行く間に、其期になつて自然と美しい花を開く樣に我信念は自から認める時が參りましやう。斯ういふ樣にあり度もの又かくある筈だと思ひますが、さて我國現在の處では、殘念ながらかゝる例は殆ど見ることは出來なからうかと思はれます。如何でございます。先その信仰深い父母が幾何ございましやう。潔い靈氣に滿てる家庭が何處にどれ程ありましやう。況て幾千幾萬と兒童の群集る小學校にたづねて信念の影も見出すことが出來ないことゝ思ひまして、實にこゝろ細いかぎりではありませぬか。無宗教の親より生れ、無宗教の家庭に育ち、無宗教の學校で教育せられました其本性の若い和かい心は、目前の生活難や皮肉な大陸文學にさいなまれ、度々汚れた社會の犧牲となる可憐の青年男女が、幾百幾千あるではありませぬか。私はこんな人々をを見る每に、あゝ濟まない、我々親としてすまぬ、この人々を陷るゝ社會が惡い、實に氣の毒であるとしみ〴〵感じます。そして一方世の塵に汚れない清淨無垢の小供等を見ましては、どうしてこれを保護しやうか。此汚れた恐ろしい世の中に我のみ獨り白百合の花と咲匂ふ丈の德操をどうして養なつたらよからうかと、寢覺にも忘れ得ぬことであります。もと〳〵私は信者の家庭に於きまして、又は宗教學校に於てあまりに形式的に宗教を小供に敎へることは害あつて益少いことを感じまして、小供に相當の思慮が出來るまで成可く形式や理屈を敎へずボンヤリと育て、父母が其子の守護神となり父母を通して神を知るに至る樣、専ら父母の人格を高くすることにのみ心を用ひたものであります。今日とても無論此考に變りはありませぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▽當局者の注意

が今一歩進めて幼年時代には多少形式的にも宗教を教へ込む必要があると思ひます。何故と申ますと、我國現今の状態では、子供等に何のさはりもなく宗教を教へ得る時期は、此幼年時代をおきまして他にないと思ひます。この幼年時代でさへ幼兒の心に一種の疑念と不安をおこさせる事が折々ございます。つひ近頃の事、ある小學校で先生が生徒に向つて、皆さんのお宅で神棚のない内がありますか。あつたら手をお擧げなさいと尋ねましたら

三人ばかりクリスチャンの内の子供が手を擧げたとの事です。又子供が内の氏神様はどなたと突然きゝますから、不思議に思ひましてどうしてそんなことを尋ねるのときいて見ますと、今日先生がお尋ねになつたと申ました。承りますと、近頃我國に信仰がなくなつて居る、其爲に極端まで道にはづれた考や行爲をする人々がある。なんでも信仰心を起させなければならぬといふので、當局者は大に心を用ひられるとのことで、扨てこそ小學校なぞでさきの様なことを屢々兒童に尋ねられることかと思はれます。ある學校の寄宿舎では部屋毎に神棚

を設け大神宮を祭つてあるとのことで、兎も角も信仰といふことに注意をする樣になつたことはよいことだと思ひますが、其信仰が從來の薄弱な迷信に近いものを敎へられることはむしろ困つたものだと思います。

七八つや十前後の小供にさへこんな衝突を感ぜしめる我國の狀態ですもの、中學校や高等女學校では少年少女の淡い無邪氣な信念を保護する所か、これを冷してめちや〳〵にするばかりであります。ごらんなさい、小學時代ではよく日曜學校にも出席したものが、中學生となり高等女學生となりまして、とんと遠ざかつてしまふ事があります。又出席致しましても何となく生意氣になつて、冷評する樣な態度を見せることが屢々ございます、之れは全く學校の感化であると思ひます。と申て、私は强ち先生が惡いとばかり申のではありませぬ。それは我國社會全體が惡いのだと思ひます。凡そ敎育を以て任じて居られる方々でございますから、各々の信仰のことなど干渉せられぬは無論の事でありますが、年少者のあどけない信念を保護して下さるほどのことが出來ませぬ。其友人等は我を勝に小理屈を並べて、其人の信仰を冷笑樣なことがありますから、何時とはなしに自分も釣り込まれて、何んだか家庭で敎へられることが世間並と違つて居て、自分獨り仲間はづれの樣な感がしたり、窮屈な樣な氣持がしたりして、これ迄樂しみであつた敎會も重荷であるかの樣感じまして、追々に疎くなつて仕まふのであると思はれます。實に此高等女學校又は中學時代は最も六ケしい時代で一番感化の及ぼしにくい時だと思はれます。そこで幼年時代に全力をそゝいでよほど慥かなものを植ゑつけて置きませぬと、もうとり返しがつかないことになつて仕舞ます。

▽家庭の禮拜

それなれば小供にどんな風にして宗敎々育を施したらよいでございましやう。先づ第一に家庭の禮拜

を爲すことが大切だと思ひます。毎日或は一週に何回と、朝又は夜、家庭の便宜により、一定の時を定め家長又は主婦が司會者となり、願はくは召使ひに至るまで家族一同を集め、聖書を讀み又は小供に適當の短いはなしを爲し、讃美祈禱をして、厳かに二十分又は三十分の時間を費すとは、小供に深い〱貴い印象を與へることゝ思ひます。其讀む處の聖書の意味はよく別らずとも、又其お話の譯はよく解し得ぬにもせよ、神様に對するおごそかな父母の態度は幼心に慥かに感得せられて、何事のおはしますかは知らねど、只貴い、有難いといふ念は必ず發して來ると思ひます。それがもう宗教心のきざしと云つてもよい。かゝることが度重る中におのづと深くなり、慥かになつて、眼に見えぬ神に仕へ御心を伺ふといふ敬虔の念が生じて參ります。此處が先に申ました多少形式的の事でも教へ込む樣に仕度と申た處です。或人は申ます。それは形式だ。分りもしないものに聖書を讀で聞せたり祈りをしたりするのはよくない、自分でそういふ氣が起る迄放つて置いたがよいと。成程一寸そう思はれる點もございますが、放つて置ていつ其機が參りましやう。あまり自然に任せて放つて置きますと、何時の間にか其畑には樣々の雑草が生ひ繁りまして、あはてゝ仕舞ことがあります。和らかい中に熱を與へ水を注いで其土地を養ひますと、蒔く處の種子が見事に育つではありませぬか。紅葉の樣な手を重ねて父母兄弟と神の前に跪いた其心地は、白髪の老人になつても忘れ得ぬことだらうと思ひます。あゝ此氣持、此感は卽ち天に向つて憧憬れて行く宗教心ではありますまいか。家庭禮拜は乃ちこの心を養ひ育てる唯一の機會だと思ひます。

▽嚴肅なる態度

其他食前感謝すること、就寢前に祈ること等、これらも幼年より教へることはよいと思ひます。只こゝに注意せねばならぬとは祈りをするといふ樣なこ

とは最もおごそかに愼んでせねばならぬといふことを能く〳〵知らせねばなりませぬ。よく聞く處ですが、内の子供が斯樣な事を云つてお祈りしますよなど〻面白半分に話されることがありますが、それはよく注意しなければなりませぬ。子供が云つてるのは眞面目で、言語や容姿が整はない爲におかしく思はれるのかも知れませぬ。若し又おどけてして居るのならおだやかにおどけてはよくないことを知らせて、改ためる樣にしなければなりませぬ。最神聖なことを輕々敷したり。よく分りもしない宗教上の理屈を敎へたりすることは小供のこゝろを輕薄にし冷かにして終に頑なにして仕まふ恐れがあります。返す〴〵も此點は注意しなければなりませぬ。

かくして幼い時から神に對するこゝろを養ひ〳〵致します中に、終に習ひ性となつて、どうしてもとりさり難い情念となつてしまひます。そうするとかの中學時代となり、又は高等學校時代となつて、一時樣々の疑が起りまして苦しみ惑ふことがありましても、内にある神を慕ひ憧るゝの情念の爲に、蔽はれんとする雲霧をはらふとが出來やうと思ひます。又危きに臨んで、ハット引きとめるものも此心です。故にあらゆる方法を以てこのこゝろを養つておくことは親の子に對する務の中の最大なるものだと思ひます。

家庭に於ける亡父の平生

小林富次郎

去る日神田の小林さんのお宅を御訪れ致しまして、當主の富次郎さんに御目にかゝり（もとの徳次郎樣）故御父上の御話しを承りました。餘所の方には色々面白き話がおあんなさる樣子ですが、始終一所に暮らして居りますと、馴れると申しますか、格別斯うと云ふ御話も御座いませんと、餘り多くを語られませんでした、それでも尙故人の面影を偲ぶにはあまりある事でした。（記者）

親と云ふ言葉には限りのない慈愛の想が含まれて居る事も、又親たる人の行爲にも愛撫の實際が表はれて居る事は、寧ろ當然の事でありますが、然しつ

く〳〵亡父の平生を見ますと、如何しても普通の親としてのやり方とは思はれませぬ。親切と云ひませうか、篤實と申しませうか。能くもあゝ云ふ風に氣が付いたものだと、殆んど言葉がない位であります。

「子供は神樣からの預ものだ」とは亡父の平生申してゐた事でありますが、實際此心を以て萬事をやつて行つたのですから、自然と同情、慈愛、懇篤といふやうな事が不知不識の間に出來たものだらふと思はれます。特別に之がと擧げて申ことを記臆して居ませんが、一例を申しますれば、私の母（小林未亡人）の實によく面倒見たものだと思ひます。數年前から小供に家庭教師を呼んで復習をやつて貰つて居りますが、序だと云ふので母も一寸したものを勉强してゐましたが、其母の勉强の時間中には、假令用があつても母を呼び立てた事はありませんでした。身の廻の事も其間は自分で辨じて、少しでも母の便宜を計るといふ工合でした。而も自分は眼が惡いにも係はらず、丁寧に母の質疑に應じてやる態度が、側から見ましても誠にやさしく美しい樣でした。

又決して顏に表して怒ると云ふ事のない人でした。私から始め若い連中は、氣に入らない事があつたりすると、つい荒い言葉を出す事がありますが、亡父は相手の者の言動が無理な場合でも、其場では決して叱りもしなければ言ひ爭ひもした事がない。其後機を見て其者を呼び、此間の事に就ては自分は斯う思ふがお前は如何思ふかと理を推して申しますから、其頃は己に相手方も平靜の心になつて居りますから、成る程と合點が行き、惡かつたといふ念が起るのであります。こんな風でありましたから家庭の空氣は頗るあたゝかに、お互が睦み樂しむと云ふ工合で、亡父が與へてくれた好感化は將來に於ける私の家庭の唯一の指針で御座います。

前申しました通り、「小供は神樣からの預りもの」と云ふ考から、孫共を愛育して些細の注意でも怠るまいと致して居りました。地方に旅行中には其音信の都度に小供の事に就いて書いてよこすので御座い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます。先年洋行中各處から繪葉書などをよこしますにも、一寸端の方に大切に育てる様にと書き添へてあります。

（記者云、丁度アルバムが机の上に出て居りましたので、御話を承り乍ら開いて見ますと、卅八年五月廿七日の日附で、セントルイス市の繪葉書に、「今朝當セントルイス市に無事着仕候、今日土曜日にて此公園にて、諸學校の幼年小兒の大運動會あり、凡二萬人の由、丁度濱子、喜一位の年頃の少年を見て一層の感を覺え申候。歸宿後直ちに濱子喜一、寅次郎、卯三郎、辰四郎、五子の寫眞を机に置き熟見、相樂み申し候。」と認めてありました。又同年六月二十八日、ニーヨークよりの繪葉書には「本日は忘る可らざる大吉日也　其譯は五月十九日附の來狀に濱子の手紙が封じありき。開封するや第一番に始より終迄五六度も繰り返し拜見し、斯る喜ばしき吉報は生涯中今が初めてなりし」と認めてありました、之を見ても如何程お子供方を可愛がつて居られたかを察する事が出來ませう。）

又亡父は謙讓な人であつたといふ事を度々聞き及びますが、現に子息たる私に對しての書翰の文句も丁重なもので私を呼ぶに貴殿といふ字を用ゐて居りました位です。又店員を尊敬し且つ好遇したもので、彼等は皆商賣に雇れて來たものであるから、商賣といふ點から云ふと、店主も店員も同等のものであるとの考から、皆平等な待遇をしたのであります。此新年に年始狀と共に店員殘らずが寫眞を撮影して出す計劃がありまして、九段の佐藤で寫眞を撮つた事がありました。亡父も佐藤に行つて撮つたのでありますが、店員と同じく手札形にする事を主張し、それは餘り非道いから、カビネ形にしたらと側からいろ／＼勸めましたれど、遂に承知せず、又店主だからと云ふので、排列の順序も上の方に置くのを拒んで、何卒下の方に入れて呉れと云つたといふ事を、後で私は聞いた事でありましたが、萬事此精神で一生を送つた人でありました。（談）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事の折々

▲露獨協約の成立

外電によれば、露獨兩國が從來の疎情をうち破つて却つて親和の狀態に移らうとするの消息は、今回の露獨協約の成立によつて愈々確められ、これで獨逸は益々外交上の勝利を占め得ることとなりました。

元來、此兩國はかのクリミヤ戰爭(一八五五)以後親密となり、一八七二年以降伯林會議(一八七八)頃迄は同盟關係に在りましたのですが、其後形勢一變、佛露同盟(一八九二)英露協約(一九〇七)で、一時は兩國の關係離隔されたのですが、殊に墺國がボスニヤ及びヘルツエゴヰナ兩州の合併事件(一九〇九が)突起すると、獨逸は露國を壓迫し、其同盟國たる墺國の志を遂げさせ、一時は凡ての露國人をして嗔怨の血を沸かしめ、而も何等の報復なく又英佛二國も露國を助けて獨逸を抑ふることが出來ず、時の露國外相イズチルスキー氏をして危迫の地に陷らしめ、遂に露國政府内の親獨派をして再び其頭を擡げしめたのです。獨逸はさるもの、此機に乘じて一昨年レヴルの兩國皇帝の會見あり、更に昨年十一月伯林郊外のポツダム宮に於ける再度の會見となり、爰に於て兩國親近の囘復が其基礎を作るやうになつたのです。

今回其證據の一として世に見はれたのを報ずれば、第一、國際間の新問題起らば互に意見を交換すべきこと。第二、現在の三國同盟(獨墺伊)、三國協商(英佛露)を其儘としておくが、獨露兩國は其一方に反對し攻勢を執るが如き團結に加はらないこと。第三、露國は小亞細亞に於ける獨逸の利權を、獨逸は波斯に於ける露國の利權を互に尊重すべきこと等で、結局バグダット鐵道(獨逸の企畫)と北波斯鐵道(露國の夫れ)との連絡を約定したるが其骨子であります。

之に由つて見ると、獨逸は第三の項目で獨逸が多年の宿意を成し遂げ、外交的勝利を得ることになつたのです。といふのは、露國が北波斯鐵道を中心とせる波斯に於ける勢力範圍は既に英佛獨等列强の承認してゐることでありますから、今回蛇足的再承認を條件として、未だ曾て列强の承認を經ざりしバグダット鐵道計畫を是認するやうになつたのは慥かに、露國外交の失敗と見なければならぬし、元來此バグダット鐵道は數國共同の下に經營せんとの國際上の宿題であつたので、英國は之によつて埃及と印度との連絡を中絶し、佛國は之によつてシリヤ發展に妨害を受け、露國は、此によつて土耳古軍隊が容易にアルメニヤに集中することを傍視する譯合にあるからであります。獨逸帝國の辣腕眞に驚くべきものであります。今春我國にも獨逸皇太子が御見ゑになることですが、これは單純なる御觀光のためではないといふ取沙汰があります。

▲カーネギー翁の寄附

世界の鋼鐵王として知られたる米國の大富

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

豪カーネギー翁が身を貧賤の地より起して致富に一大成功をなしたると共に能く平和事業や學術の奨勵等のために財貨を投じて富の福音を正當に宣傳しつゝあることは、夙に讀者諸姉の御耳に達したことでありませう。然るに今般金二百萬圓を我早稲田大學に寄贈するの好意を或人を介して申込まれたといふことですが、大隈伯は大日本平和協會の會頭として、先きに米國の或新聞に平和論を寄稿せられたのが、非常に江湖有識者の喫賞を博しました。それかあらぬか、米國平和協會々頭カーネギー翁が之を緣由として大隈伯が生涯に光輝を放ちつつある育英事業を助くるの意味で、同伯が現在總理せらるゝ早稲田大學に對し今回の好意を寄せらるることとなつたのであると申すことです。これにつけても昨今世間で噂さする大隈伯渡英のことが實際に行はれたる曉には、其足跡は盡く歐洲の人士に好感を與ふるに至ることであらうと思うて、老伯の益健福ならむことを希望して止まぬ次第であります。

▲帝國議會の開會

舊冬十二月二十一日を以て開院式をあげられ、例年の通り一月二十日まで休會をなし、二十一日を以て愈々第二十七議會の本舞臺が幕開きとなりました。これより三月下旬までは政治季節の花盛り種々の問題が提出さるることと思はれますが、就中、税制整理、關税問題、朝鮮併合に伴うた財政上の緊急處分違反問題、鐵道改築案即廣軌問題等隨分大切でしかも興味のあるものがありますが、本年度よりは從來の慣例を廢して、委員會公開のことは原則として禁止といふことに相成り、委員會の經過に關するは報導は、容易に詳かなることが出來ぬやうになりました。一體、從來の議會の成行を見まするに、委員會が寧ろ主となつて本會議は其副物であるかのやうな傾向でありましたのです。で、各議員が上下する論議は多く委員會で盡され、本會議は其結果の報告會といふやうな觀を呈して居つたのですが、本年からは委員會公開禁止となりましたから、何れ利口な議員は却つて本會議で盛に舌焔を揚げることと思ひます。勿論、新聞記者當込の藝當と酷評すればそれまでのことですが、何れ、本會議傍聽者の趣味は一層豐富になることであらうと思はれます。

▲村松前代議士夫妻

愛知縣撰出前代議士・村松愛藏氏はいはゆる日糖事件に連座して議員失格となり、一定の刑期服役中特免されましたが、出獄後、日頃溫厚篤實を以て政黨社會に聞ねて居られた同氏は深く前非を悔い、一身を獻げて神に奉仕し、人を救はんとの念願よりして救世軍に投ぜられた。開院式當日の如き世の惡魔と戰ふ雄姿を救世軍の制服で固め、嘗ては輕車を驅つて出入した帝國議會の門前に陣取つて入り來る議員に新生の説教をなされたが、勢利の途に迷ふ議員の多くは、冷眼を以て迎へたさうですが、まさか議員とて惡魔の子と極まつてゐまい。心中大に氏の昨今に思ひ比べて、我身の振方を考へたものもあつたでせう。話變つて氏の夫人は先年仔細あつて生家に別居してをりましたが、偶々日糖事件が起り、眞人の入獄となりし當時、「骨だけは拾つて上げる」といふ電報を寄越された。が、今回愈良人が新生活に入つたといふことを慥め、名古屋の生家を出で救世軍士官學校に入營し、夫婦諸共獻身力行、神國の發展にいそしんでゐら

ゐるといふことです。記者は夫婦の前途に神佑の豐かならむことを祈るものであります。

▲無政府主義者の判決

其筋の命達もあることとて、今まで態と筆を染めずにおいたかの幸德一派の大陰謀事件も昨年末終審、一月十八日を以て判決言渡、特別裁判は普通の三審制と異り、控訴、上告はすることを得ませぬ、一審で極まるのです。二十六名の兇徒の中二名を除く外はすべて刑法第七十三條に該當する者として盡く死刑に處せられましたが、其後、聖恩洪大、就中情量すべき者十二名に對し特赦減刑の恩典を賜はり各死一等を減じ、無期懲役に處せられました。最早周知の事實ですから、陰謀の由來等はここに申上げませぬが、刑法第七十三條が我國民に對しては三世に通じて無用の空文に過ぎずとは、從來學者の說明をまたなくとも、國民各自が夫々感銘しておつたのに、今回端くも其適用を見、金甌無缺の國史に一大汚點を印するやうになりましたことは、眞に 皇室に對し恐懼措く能はざるところであります。桂首相等が職責上 陛下に待罪されたといふことですが、此心掛は陛下の赤子たる庶民一般にも當然有るべきことであります。思へば、彼等兇徒も素はこれ我等の同胞で、いかなる理由あるにせよ、不健全なる思想に捕はれた結果この始末となつたことと思はれます。

▲千里眼婦人の毒死

所謂千里眼の元祖たる熊本の御船千鶴子女史は一月十九日毒藥を仰いで非命の最後を遂げました。家庭上の煩悶が其死因の主なるものとしてあげられてゐます。昨今千里眼問題が學者間の論難攻擊の裡に彷徨して居る最中に、突如として女史が此凶報を傳ふるに至りましたことは、漸く學界の珍として蒋來の科學に新解釋の一閃光を與ふるものと思ふにつけ、いとご同情に堪へませぬ。夫れにしても强慾なる漢法醫を實父とせる女史が、敢然其射利の陋志と戰ひたる芳ばしき志を思へば、更に氣の毒に思はれます。

●●●●慈愛の涙　村田勤編

京新商會發行定價　金壹圓八拾錢

世に愛兒を失つた悲みにまさる悲みはありますまい、編者村田氏も此悲痛を嘗めたる人、氏をして此著をなさしめたる藤川氏も同憂の人で御座います、人間無上の悲慘に出會つた兩氏が、亡兒の紀念の爲めとて此著をなされた其事が、誠によい思ひ付きで、我出版界にはあまり類のない事だと申すよりも、記者は此著の編纂によりて、せめては其悲みを忘れよう、同じ哀に沈める人を慰めようとせられた其心を思ひやつて、眞に同情にたへぬ者であります。集めてある處は皆愛兒を失へる人の痛しき感想や、親戚知友より贈つた弔慰の文章詩歌に、併せて古來文學上に表はれたる這種の詩歌文章であります。松井とも子氏、和田淋熊氏、中村長之助、西内天行氏、安部磯雄氏、宮川經輝氏、等悉く吾等の知れる人々、讀來り讀去り潸然として淚の下るを覺ねませぬ、嗚呼「三千世界に子を持つた親の心は皆一つ」とは眞に人情を穿つた言葉だと思ひ當る事で御座います、只に子を失はれた經驗のある方ばかりでなく、好個の讀物として皆様の御家庭にすゝめたいと思ひます。裝釘美麗堅牢、表紙畫のなでしこの花が一つ打れて居る處、又なくあはれを引いて居ます（楠男生）

摘草集

▲本邦の結婚と離婚

本邦結婚數及離婚數

	結婚	離婚	結婚十に付離婚數	人口千に付結婚數
二七	三八一、三二九	一一四、四三六	三・一六	八・六四
二八	三六五、六三三	一一〇、八三八	三・〇三	八・六九
二九	五〇一、七七七	一一五、八九四	二・三〇	一一・五五
三〇	三六五、二〇七	一二四、〇七五	三・三九	八・四五
三一	四七一、一九八	九九、四六四	二・一	一〇・七七
三二	二九七、一七七	六六、四一七	二・二三	六・七一
三三	三四六、五九〇	六三、九二八	一・八四	七・七〇
三四	三七八、六三七	六三、五九三	一・六七	八・三三
三五	三九四、三一八	六四、三二一	一・六三	八・五七
三六	三七一、一八七	六五、五七一	一・七六	七・九四
三七	三九九、二一八	六四、〇一六	一・六〇	八・四六
三八	三五一、二六〇	六〇、一七九	一・七一	七・三七
三九	三五三、二七四	六五、五一〇	一・八五	七・三四
四〇	四三三、五二七	六一、一九三	一・四一	八・八八

（備考）本表は結婚及離婚箇數にして故に人員に於ては正に倍數に上るものとす。

即ち上表に出ると、人口千に對する結婚數は、日清戰後から日露戰後に懸けて、年々に就て見れば時に著しき增減あるも、大體の上からは、多少減少の傾向は見ゆるも、左程の事は無い樣である。然れども一轉して離婚の數を見ると、實に非常である。尤も此離婚數は年々減少しつゝあるが、去二十八年迄は、結婚十に對して、離婚三を降つたことは無い。三十一年以降は離婚數が、俄然減じて二となり、更に四十年には一・四一となつたのは、一は法規の改正の爲めに、離婚が困難となつたことが一大因原であるに相違ないが、また一方に於て婚姻道德が改良されたこともあると思ふ即ち婚姻を忽かせにしない樣になつた結果であると思ふ。然れども上表は公に屆け出た數に過ぎない。此外に公に屆け出ない結婚、所謂內緣の夫婦となりたるもの、而して離緣となりたるもの、また決して尠くないと思ふ。否な離婚が面倒となつた結果、公に屆け出ない內緣の夫婦が、或は却て增加し、從て同時に屆け出ない離緣も增加したかも知れぬ。果して然らば、公けの離婚數は上表の如く大に減少しても、眞の事實は左樣でないかも知れぬ。

	自一八六七年至七六年平均	自一八七七年至八六年平均
英蘭	九	一九
蘇格蘭	一六	二九
愛蘭	一	二
大英國	九	一八
佛蘭西	七二	一二七
獨逸	一〇七	一五二
露西亞	一八	二二
波蘭	四九	五五
墺地利	七	一〇
匈牙利	—	六四
伊太利	三一	二四
丁抹	三五三	四〇六
日本	三、一二八	一、七七五
那威	二四	三〇
瑞典	五六	七三
和蘭	五〇	九一
白耳義	四〇	六九
ルーメニア	九九	一〇六
瑞西	—	四六八
巴里	二九七	三二二
伯林	四二〇	五三三
維也納	二一〇	二九〇
濠洲	—	三五
米國	三三〇	四四四
加奈陀	五	一二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(備考)表中日本の分は千九百七年に至る十年間、及び千八百九十七年に至る十年間の平均なり

右表に由るさ、彼の人口の密集せる都會は姑く之を除き、結婚に對する離婚の最も多い國は米國、瑞西及び丁抹で、共に結婚二十乃至廿五に對して一の離婚がある。之に次ぐは獨逸佛蘭西、ルーメニア和蘭等で、結婚に對して、一乃至一中の離婚がある。英國、露西亞、伊太利の如きは結婚五百に就て僅かに一の離婚に過ぎない。然るに我國は結婚十に就て殆んど二に近い離婚を示して居る離婚率の最も高い米國、瑞西及丁抹に四倍乃至五倍の増加である。實に非常さ云はればならぬ。

然れども玆に著しい事實は、各國に於て離婚の數は年々増加し行くに拘らず、獨り我國に於て著しく減少を告げつゝあることである。即ち千八百八十六年に至る二十年間に、英國の離婚數は二倍し、佛國は八割方、獨逸は五割方、米國は約四割方の増加を告げたが、我日本は四十年即千九百七年に至る二十年間に約六割二分の減少を示して居る。

此互に相反する對照は、主さして婚姻に對する社會の習慣制度から起つたのである。例へば基督教國に於ては離婚を殆ご禁じて、容易に許さないことが、從來離婚の少ない一大原因であるのだ。然るに此習慣は個人の自由の増加さ共に次第に緩るめられつゝあるので、是が則ち愈よ離婚數の増加を起しつゝある理由である。然るに我國に於ては三十二年現民法の發布以來離婚が六ヶ數なつた。是れ我國に於て爾來離婚數の減少せる一大原因である。

公生子と私生子の割合

年次	公生子百に對する私生子	年次	公生子百に對する私生子
二二	六・〇〇	三一	八・五四
二三	六・一四	三二	九・〇六
二四	六・一七	三三	九・六七
二五	六・四八	三四	一〇・二一
二六	六・六三	三五	一〇・三四
二七	六・七一	三六	一〇・三七
二八	六・八七	三七	一〇・二五
二九	七・〇五	三八	一〇・〇九
三〇	七・一六	三九	九・九六

私生子の割合は各國共に相違して居るが、英米佛の如き、何れも百分の二乃至四の間である。然るに我國に於ては實に百分の十さ云ふ高數に上つて居る。尤も上表は死産を除ける生産公生子に對する生産私生子の割合である。斯くて我國は、年々の結婚數は略ぼ英米佛諸國さ大同少異に過ぎないが、離婚數さ私生子の數に至ては、此等諸國より數倍の多數である。(東洋時論)

◉真澄の鏡 井上通女

岡田辰次郎 神井虎夫 共著

同文館發行 定價九拾錢

元祿時代の才女さして一世に歌はれたる井上通女を傳したるものです。處女賦や深閨記などの文才によつて吾等の知つて居つた通女の一生は、本書によりて殘り知る事が出來ます。處女さしての通女、侍女さしての通女、妻さして又母さしての通女、通女の晩年、通女の學殖の數項に於てうかゞはれる通女は、現代に於ても理想の婦人さして吾等の推奬して憚からない處であります。

隨感

病院より

元良よね

記者云、本篇は御子息潤さんの御病氣看護のため、高輪病院に御入院中より、元良夫人より海老名夫人にあてた私信で御座いますが、いと美しき御感想で御座いますから、乞ふて之を誌上に載せる事と致しました。記者は潤さんが一日も早く御全快なさる事を陰ながら祈つて居ります。

當時病氣は寧ろ進行を氣づかふ狀態なりしにも拘らず、此度も亦經過は案外佳良にて、只今にては三度の食事も普通の御飯を食し、入浴剃髪等も許され、且晝間暖き時に數分間庭を散歩する事さへ出來る樣に相成候。當病室は空氣の流通日あたり等殊に宜しく候。又院長は非常に熱心に且親切に治療なし下され候。昨今の談によれば根治すべき見込なりとの事に候。されば今後氣長に靜養致候はゞ、健康を取りかへし得べくと悦び居候。入院當時の事ども追想致候へば、病兒の顏をながめ候てはいろ〳〵と悲しき空想に耽り候事も御座候。然しかゝる時はいつも神の御前に出る事によりて人に安きを覺え申候。大能の御手にすがりつゝ、及ぶ限りの力を爲すの外なしと覺り、御心に適はゞ病氣を癒したまへ、彼の生命を救ふべき手段を示したまへと祈り申候。

長女みさを事御兩方樣の一方ならぬ御厚情を蒙り、剩さへ先生の御司式の下に結婚致候事、又其後の彼の狀態を考へ候へば夢かとばかりうれしく忝く存じ候。御存じの通り私共に五人の子女御座候處、婚姻致させ候は此度が初めてに候、又女の子を遠方に離し候も此度が初てに候。「私が學校の事にのみ屈托致し、母上の御手傳を致さで濟まぬけれど、今暫く許し下され、卒業も致さば御手助申さん」などゝ彼が申候時は、私も「ありがたう、何卒」などゝ口に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は申候も、あれの將來を思へばいつまでも自家に置き度くもなく、卒業にても致さば、應はしき人に縁づけ度くと、心中希望致候は誰も同じ親心にて候はん。さりながらいよ／＼離るゝ事に定れば、何となく名殘をしきやうな心寂しき樣な、一種異樣な感想起り申候。申上るも御恥しけれど今となつて見れば、却て子供等が幼かりし昔が戀しく、今十年ばかり少さくして見たしなどゝ、愚なる空想がつい口走り候て、「序に父上も母上も今十年お若かくなれば尚結構」などゝ子供に言はれ互ひにうち笑ひたる事御座候。

這へば起て、起てば歩けで子供の智慧づくを樂み、飴でも引き延ばすやうに速く大きくしたがりながら、いざ大きくなれば今一度少くして見たしなどゝ勝手な言草、之れが本當の親馬鹿にて候はん。又夜半目醒め候時など、私の思は遠く二十年の昔、彼が誕生の當時にまで遡り、己が傍にすや／＼と眠り居る嬰兒を視てつく／＼感じ、嗚呼まだ罪といふものを知らぬ如何にも淸い尊い、若し彼の首に刄を觸るゝ者あらんか、彼は怖るゝこともなければ逃んともせざるべし、いかに助けなき者よ、若し慈愛の手を以て育つる者なくば、己が身を保護することも知らずと思へば、哀れにて、その尊さと愛らしさといたしさとの感に打たれ、坐ろに落涙致候事これあり、又この可憐の嬰兒を愛育するといふ重く事く且樂しく興味ある責任を自分が神より授けられしと思へば、言ひ知れぬうれしさを感じ申候。斯る古き感想まで喚び起したる事も御座候どうか彼が天與の健康とあらゆる德性とを充分發達せしめ、一人前の人間に育て上げたしと念ずるは當然の情に候へども、明日の事すら計り知らぬ人間が、如何で十年二十年後の事を豫期し得べき、只時々刻々上よりの御力を仰ぎつゝ今日に到りたる次第に御座候がともかくも彼が一人前の年齡に達し、足らぬながらも社會の一員として出るやうに相成候事は、全く神の御恩惠と感謝に堪へざる次第に御座候。

編輯だより

▲本月は編輯部手不足の爲めに、手廻りかれた事情もありまして、計畫通りにまゐりませんで、遺憾の事で御座います、それでも前號に於て豫告致して置きました通り、德富健次郎先生が自ら御執筆下すつた事は、吾々の眞に光榮と致す處で、讀者諸姉と共に喜びと致す處で御座います。

▲來月は學年の終りで、新らた學校に入學せらるゝ年齡の子女を持つてゐでの母姉方には、學校の撰擇やら注意やら、いろ／＼と御苦心のある事と思ひますから、本誌は出來る事なら責任を以て其方面の御消息を御知らせ申したいと存じて居ります。讀者諸姉の中此事に就て、御質問なり御感想なりがおありになる方は、御遠慮なく御申越を願ひます。

▲世の婦人雜誌が、賣らん事のみ競づて、輕薄な歯の浮く樣な記事を滿載して讀者に諂びて居りますのに、此度同文館の「婦女界」は其内容を更改して、健全なる精神、好尚なる趣味のために努力する事となり、長年此方面に力を盡されつゝある羽仁氏を招じて編輯監督を依賴した結果、實に立派な眞面目な雜誌となりました。吾等は吾國婦人の爲に這種の眞面目な讀物が表れるのを喜ぶ者であります。

▲小橋三四、柴田とう兩氏の名を以て、二名の朝鮮婦人を二箇年間内地に遊學さす資料として、一時寄附三拾錢宛を募集する趣意書がまゐて居ります、金員の送附は東京小石川區日本女子大學校内小橋三四氏宛の事。

▲今月は寒氣の最も强き時、皆樣の御健康を祈ります。

本誌定價（一部金拾錢（郵税ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵税ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵税ナシ）

外國行定價（壹部金拾四錢（郵税ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵税ナシ）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵税ナシ）

行詰廿七字	四分ノ一頁	半頁	一頁	内表紙拾二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候
●郵劵代用は一割增の計算にて御送附被下度候
御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候。但手數料金壹錢御加へ被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區林町四十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十四年一月二十九日印刷
明治四十四年二月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町一ノ二六　相原一郎介
發行所　東京府下豊島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市牛込區田町五丁目十一番地　富藤活版所

新人第拾貳卷第貳號目次（二月一日發行）

●現代基督教の二大根據

◎教壇

●信仰と忠君……海老名彈正

◎想苑

●近時の基督教觀……津荷環山
●一元か多元か……富永德磨
●精神界の惰氣と吾人の覺悟……額賀鹿之助
●文化の大勢と基督者の藝術觀……川島金五郎
●マンフレッドの性格に就て……佐藤清
●憲政と教育……田沼富三郎
●黄葉を見て……佐藤瀫橋
●大ざらひ……孤峰生
●微吟二章……田澤藤郎

◎聖書講義

●馬可傳……海老名彈正

◎雜俎

●故小林富次郎氏の事ども

△交友三十年……林田龜太郎
△受洗當時……長田時行
△至誠の人……小林丈之助
△氏の事業の一面……秋元倘壽
△店員の見たる小林氏……井口昌藏
△禁酒會員としての小林氏……安藤太郎
△慈善家としての小林氏……留岡幸助
△組合教會役員としての小林氏……澤村重雄
△青年會理事としての小林氏……江原素六
△救世軍の恩人……山室軍平
△友人の見たる小林氏……島田三郎
△小林氏と共に洋行せし時の思出……加藤直士
△小林富次郎氏の信仰生活……海老名彈正

◎研究

●基督教の根本眞理……海老名彈正

◎時評

●官民共に反省すべき秋
●大逆罪と現代の教育家
●井上博士の死宗教と活宗教
●編輯局より

發行所　東京市小石川區林町四十三番地

新人社事務所

振替口座一四〇〇五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最も貴重なる智識を最も單純に意得し得るは本會の有する最大特色也

女子手藝講義錄

普通科
高等科
一ヶ年終了

會員募集

手藝の素養なき婦人は文明の婦人たる資格を有せざる人なり

少額の費を以て家庭に最も有効なる手藝の最新智識を完全に修得せしむるは本會の講義錄也講師は斯道の大家四十名世界の技術と最新の流行と最新の考案を最新式の說明法を以て簡易に講述す

共立女子職業學校
櫻友會內手藝普及會編

社交上精神上家政上の成効を希望する婦女子は速に入會せよ

無料進呈 入會規程 內容見本

圖解入（每號石版彩色木版數十個入）

質疑 會員の質問は最も丁寧に應答を示す

會費		
普通科	一ヶ月	金參拾錢
	半ヶ年	金壹圓七拾錢
	壹ヶ年	金參圓貳拾四錢
高等科	壹ヶ月	金參拾五錢
	半ヶ年	金壹圓九拾九錢
	貳ヶ年	金參圓七拾八錢

入會申込所
東京日本橋 大倉書店

羽仁もと子編輯

毎月一回

一日發行

婦人之友

定價 一冊 拾貳錢
半年分 六拾五錢
（郵税とも）

四卷一號

▲かく考へて友と交りたし……仁羽もと子

▲近代の家庭が要求する主婦……宮田修

▲主婦の時間割（早朝―午前の時間―午後の時間―夜の時間―日曜日―祭日）……

▲子供の時間割（父母のをしへ 其一）……

▲學校教育を有効にするために……

▲掃除のしかた（女中の心得 其一）……

▲小足王子……松本雲舟

▲我家の家計……愛天生

▲和洋二種の食卓（手輕にして思ひつきなる料理數種）……みどり

▲年の暮に成功したる仕事……むら子

▲主婦の經驗（裁縫、料理、家事の經驗いろ〳〵）……

▲家政問答……

▲讀者消息……

發行所 東京小石川雑司ヶ谷町 振替東京壹壹六〇〇番 婦人之友社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

壹號三版出來　各號全部取揃

人道講話

第十三號二月一日發行

◎修養に就て　村上專精

一、修養の意義……第一號

二、修養の必要なる所以

三、修養の必要なる原理—儒教に就て……第二號

四、同、佛教に就て

五、修養の分類……第三號

1、身體に關する修養
2、技藝に關する修養
3、智識に關する修養
4、情操に關する修養
5、意志に關する修養
6、最終理想の修養

講話主題　誠の研究

文學博士村上先生述（第十三號）

六、教育と修養との關係……第四號

七、道德と修養との關係

八、宗教と修養との關係

九、修養の目的……第五號

1、目的とは何ぞや
2、教育上より見たる修養の目的
3、倫理上より見たる修養の目的
4、宗教上より見たる修養の目的
5、教育倫理及宗教最終の歸着點

十、修養の方法（一）……第六號

1、修養に志ある者は先づ其友を選べ
2、修養に志ある者は惡友を善用せよ
3、修養に志ある者は逆境を順用せよ

十一、修養の方法（二）……第七號

4、修養に志ある者は順境に注意せよ
5、修養に志ある者は心の惡魔と戰へ

十二、修養の方法（三）……第八號

6、修養に志ある者は今日に注意せよ
7、修養に志ある者は多年一日なれ

十三、修養の方法（四）……第九號

8、修養に志ある者は規律的生活なれ
9、修養に志ある者は先輩の行跡に倣へ

十四、修養の方法（五）……第十號

10、修養に志ある者は大膽と共に小心なれ

十五、修養の方法（六）……第十一號

11、修養に志ある者は飲食物の注意に怠る勿れ
12、修養に志ある者眞正の宗教に依れ

◎人の運命（特號）……第十三號

▲感　話▼

父に別れし時の感（村上專精）……第二號

初めて松本君の意を解す

猫に對する感……第三號

聖德太子の肖像

釋尊降誕會に就て……第四號

釋尊降誕會の時に就て……第五號

▲雜　錄▼

先賢古德の面影（岩上行坡）……六號已下

其他趣味多き記事滿載……各號

附錄……女誡講義……二號已下

○本會は誰れにも入會を許す○本會々員には每月本誌を無代にて配頒す○會費一年金六拾錢入會の際納附のこと

見本　金六錢但し五厘切手に限る

發行所　東京小石川區丸山町　振替東京二〇三二二　人道講話會

院長診察、月、水、木、金、午前入院、診後應需、
松田、林、峰間三副長ハ目下當院ニ在勤、
電本 八八八番(病院用) 八九八番(私宅用)

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱、從停車場半里
電 チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、
院長診察、土曜日午後入院、診後應需、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

明治四十四年二月一日發行第參卷第貳號